外国籍住民の日本語学習における 実態等予備調査委託

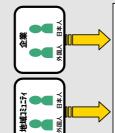
調査報告書

2008年3月 国立大学法人名古屋大学 (留学生センター)

調査結果概要 靊 における実態等予(外国籍住民の日本語学習

豊田市に在住する外国籍住民の日本語使用状況、日本語能力、日本語学習に対するニーズ、学習環境等を調査し、その結果に基づいて外国籍住民が日常生活を営む上で、最低限必要な日本語能力を習得するための学習 援システムを提案する。

調査概要



・アンケート調査 く方法ン

<調査期間>

対回調体

平成19年11月

平成20年3月

<調査内容>





調査結果

求められる日本語学習支援体制

受入地域コミュニティの現状

ほぼ半数の人が日常的な挨拶のみ <外国籍住民との接触度>

| <問題認識 >

【日本語能力の向上により解決可能】・回覧板など地域の連絡の不徹底・地域の親睦活動への不参加

同じ地域に住む住民同士や同じ会社で働く同僚が、お互いのことや家族、文化、習慣などを理解し合う真のコミュニケーションが行われる場

- ・地域の清掃活動などへの不参加 【日本語能力の向上が解決のきっかけ】
 - 駐車
- 自治区や自治会などへの入会拒否 ・ゴミの出し方

- く問題解決の方策>
 ・交流会・日本語教室の開設
- ・相談員・お知らせの多言語対応 ★日本語使用機会の減少 ★担当者の忙殺

外国籍住民にわかりやすい日本語表現 を使えば、通訳や相談員や多言語サービ スに頼らなくても基本的な行動が日本語 で行えるレベル・内容

【要支援レベル】

外国籍住民の現状

 $\mathbf{\omega}$

学習継続の困難さい学習時間確保の困難さい学習環境確保の困難さ

ニーズの高なく

最低限のコミュニケーションも通訳や翻訳 に頼っている外国籍住民の日本語能力を 【要支援レベル】まで引き上げる言語シス

ムの策定

・生活のための日本語・コミュニケーションのための日本語・ア第の教育を進めるための日本語・子弟の教育を進めるための日本語

<相互理解のための日本語>

とよた日本語学習支援システムの構築

in 1 7 书 瞏 赵 钋 旭 ¥ Ш よた لد

のた設

交情の

え開

ね室 丰

兼数

域

田童印

外国籍住民の日本語能力記述、学習内容、学習方法、学習支援を行う人の育成などを網羅した仕様一覧

7 卟 K 1 摆 支 圖 钋 뭶 H Ш 4 4 7

システム・コーディネーター

Ш 日本語学習支援プロジェクトチームと協力しながら、 本語教室の開設準備、運営支援、改良支援を行う

縆

Ħ

Ш

6

のため

離 黚

回 型型

援、評価・分析、人材育成、ガイドラインの作成を行う システム・コーディネーターの要請に基づき、地域コミュニティ、企業の現状調査、教室プログラム開発支 【とよた日本語学習支援プロジェクトチーム】

た良 備・ え改 な値 業 端 計 ₩ 胂 帐 海灣 6 紭 熊 麗「 紁 上室 **着教** b 域 C 密 日本語教 報告

(プログラム・コーディネーター)

霏

¥

縆

日本語教

【来められる

システム・コーディネーター、日本語学習支援プロジェ クトチームと協力しながら、日本語教室の開設、運営、 改良を行う

【日本語パートナー(学習支援ボランティア)】 同僚や近隣の外国籍の人たちと交流することにより彼らの日本語学習を支援する

目 次

第	1	章	_	プ		ジ	'n	- /	7	۲,	及	び	調	查	Ē柑	焸.	要	<u>:</u>																													
	1		と	ょ	1	: F] ;	本	話	i号	全官	国 三 三	支	援		~	ス	-	テ	7	月	昇	発	<u>د</u> ر	7 °	口	!	シ) :	工	Ì	7	 	O.) 村	旡!	要		•			•	٠.			 	2
	2		Γ	外	Ξ	目籍	昏仁	È.	民	(T)	, F	1 才	言之	吾'	学	: 끝	되 [に	ょ	31	ナ	Z) =	実	態	속	等	3	7	備		淍	垄	֓֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞֞	†	既	要	•		, •					•	 	5
			_				_	_																																							
第																																															
			ア																																												
			Ca																																												
	3		対	象	캍	T O) 原	禹亻	生	と	(Cai	n	do	Э	S	ta	at	;e	me	en	t	S	0) [奜,	1	系	•	•	•		•		•			• •		• •	• •	•	• •	• •	. •	 • 4	19
第	3	章	Ė	提	▐	-																																									
		-	調		-		きな	,7	ら	み	・え	· 7	_ <	<u> </u>	る	ŧ	ا ک را	の					•				•							•								• •				 • 5	53
資	料																																														
		対	面	調	垄	区位	マ東	頁	文	書		. .		•		•						•	•			•	•		•		•	•				•			•			• •		٠.		 • 5	56
		ア	・ン	ケ	_	- }	、貳	問三	査	依	頼	文	て書	事•		•	•			•		•	•		•	•	•				•	•	•	•		•			•			• •				 • [57
		日	本	人	太	计面	言意	周三	査	用	7	, <u>_</u>	- =	1	ア	ル	レ・		•				•		•	•	•	• •		•	•		•	•		•						• •			•	 • [58
		外	国	人	太	计面	言意	周 =	査	用	7	, =	ء -	1	ア	ル	レ・		•			•	•		•	•	•	• •		•			•	•								• •			•	 • 6	31
		外	国	人	太	计 面	言	問 2	査	記	録	と月]糸	氏·		•	•																•													 • 6	34
		日	本	人	太	计 面	言意	周三	査	か	, È	, —	- 늗	羽	抜	.料	卆,									•	•																		•	 • 6	35
			i民																																												
			コ	171	コ	_ =	- 5	Ê,	イ	向	け	. E	コ	K,	人	. 版	귳•		•		•		•		•	•	•			•			• •	•		•						• •				 • 7	70
			コ	?	コ	. =		F.	イ	向	け	7夕	۱E	E,	人	.戕	反	(E] 7	本	語	5 [沢)		•	•	•	•	•	•				•						• •	. •		•	 • 8	32
			企	業	卢][]	トタ	1	玉	人	.版	į	(F	3 Z	本	語	5 =	沢)																											 • (90

第1章

プロジェクト及び調査概要

1. とよた日本語学習支援システム開発プロジェクトの概要

1. 1 プロジェクト発足の背景

カナダ、アメリカ、オーストラリアなどの移民受入国では、長年、異文化、異言語間における摩擦や葛藤が見られ、さまざまな調整が行われてきた。その成果は、今日の言語教育理論や方法論、そして政策にも活かされている。多くの移民を労働力として受け入れているカナダでは、政界、財界、教育界が一対となって、移民に対する言語教育の枠組み作りを行い、1996年にはその成果が語学力の共通指標として示されている。この中では、労働力としての移民に必要な言語運用力を段階的に示しているだけではなく、そのレベルに到達するための学習ガイドライン、教授者のためのチェックポイントも盛り込まれており、カリキュラムの策定や評価方法の指針となっている。また、雇用者が移民を採用とする際には、標準で示されている言語能力基準を参考にして、移民の言語能力の判定や評価を行うよう奨励されている。

統合が進むヨーロッパでは、CE(欧州評議会)が中心となり、30年余の歳月を費やして、域内のすべての言語について、シラバス、カリキュラム、教材、学習者の言語能力の基準(目標設定)とその評価方法について示した「ヨーロッパ共通参照枠(吉島・大橋他,2004)」を作成している。その枠組みに従った学習成果が域内のどこででも等しく認定され活用される保障制度を作ることによって、人々(労働力)の域内の移動を活発にし、多文化共生と経済力に裏付けられた統合ヨーロッパの実現を促している。

このように移民受け入れの長い歴史を持つ国家や多文化共生を目指す地域では、政財官民が一体となって、言語教育の共通指針、共通枠組みが作成され、その活用が国家レベルで奨励されている。

しかし、日本においては、1990年の出入国管理法の改正以降、就労を目的として来日する外国人やその子弟に対する言語教育政策は現段階では策定されていない。豊田市国際有識者会議(2007)が指摘しているように、我が国の外国人労働者政策・制度の最大の問題点は、多数の外国人が、我が国に関し、基本的知識や最低限の日本語能力を得る機会もなく、権利の確保と義務の履行も保証されず、地域の労働市場に流入し、公営住宅などに集住化が進み、さらに、家族の定住化が進む仕組みになっている点に集約される。これら外国人住民は、結局、権利の確保や義務の履行も担保されないまま、社会の底辺層を形成する危険が高まっているのである。今後、外国人住民の多国籍化、定住化、拡散化がますます進む中、健全な地域づくりを果たすためには、国の体制ができることを待っているわけにはいかないという現状がある。

こうした状況認識に基づき、とよた日本語学習支援システム開発プロジェクトでは、移民受け 入れ国の言語教育政策を参考にしながら、日本人と外国人が相互に理解し合い、問題解決が図れ るような多文化共生社会を構築していくために必要な日本語学習支援システム構築に向けて調査、 検討する。

1. 2 プロジェクトの目的

多文化共生の観点から豊田市の在住外国人に関係する団体、機関が参照できる「とよた日本語学習支援ガイドライン」を策定し、そのガイドラインに基づいた「とよた日本語学習支援システム」を構築する。日本語学習支援システムは、外国人に対しては日本語能力レベルの評価に基づく学習内容や方法を提示し、日本人住民に対しては多文化共生のためのコミュニケーション能力を伸ばすプログラムを組み込むなど豊田市が多文化共生のための言語補償政策を推進していくために必要な包括的システムを目指す。

1.3 とよた日本語学習支援ガイドライン

外国人の日本語能力レベル記述、日本語能力判定方法、学習内容、学習方法、学習支援方法、 学習支援を行う人の育成方法などについての包括的な指針と項目を記載した仕様一覧である。豊 田市内の日本語学習支援グループが教材を開発し新しい支援を始めようとするときの内容選択、 支援方法の指針、または道しるべとなるものである。

1. 4 日本語能力レベル記述

日本語学習支援システムに関わる全ての人にとって共通してもっているべき枠組みとしての能力評価基準を以下のように設定する。学習者の言語熟達度を記述するためのものとして利用し、将来的には全レベルにまたがるガイドライン作りを目指す。当面は表1のレベル0~2の成人外国人を対象とする。

レベル	段階	内容
6	熟達段階	より抽象的な議論が日本語を用いてできる。
5	深化段階	効果的なコミュニケーションが日本語を用いてできる。
4	拡大段階	より多くの領域*で日本語を用いてコミュニケーションができる。
3	自立段階	自立して最低限度の社会参加が日本語を用いてできる。
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて基礎的な社会参加が日本語で行える。
1	基礎段階	限られた単語レベルの理解と産出ができる。
0	未学習段階	日本語の産出と理解がまったくできない。

表1 日本語能力レベル記述

*領域とは「ヨーロッパ共通参照枠(吉島・大橋他, 2004)」を参考に、「私的領域」「公的領域」 「職業領域」「教育領域」とする。

領域	場所	関係者
私的領域	家庭・社会的ネットワーク	家族・知人・友人など
公的領域	道・公園・荒涼交通機関・病院・	公務員・店員・通行人・看護人・医者・銀行
	スーパーマーケット・レストラン	員など
	など	
職業領域	事務所・工場・作業所・小売店な	雇用者・上司・同僚・部下・職場の友人・顧
	ど	客など
教育領域	学校・社内教育・日本語教室など	教師・友人など

1.5 日本語能力レベルに応じた学習内容と学習方法の提示

「ヨーロッパ共通参照枠(吉島・大橋他,2004)」では、レベル2相当の外国人は「一般的な話し言葉のやりとり」では以下のようなことができると記述されている。

<u>必要に応じて他の人が助けてくれれば</u>、あらかじめ決まっているような状況、短い会話なら、比較的容易に対話ができる。あまり苦労しなくても簡単で日常的なやりとりができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。

また、「目的達成のための協同作業」では、以下のことができると記述されている。

理解できない場合は、単に繰り返しを求めるだけで、あまり苦労せずに簡単な日常の課題にうまく対処できる程度に理解できる。

提案したり、出された提案に応じたり、指示を求めたり出したりしながら、次にすることを検討できる。

このプロジェクトでは、外国人及び外国人受入機関・地域、接触の可能性がある場所での学習環境や言語環境調査を行い、その結果に基づいて、豊田市に在住する外国人の状況に応じた日本語能力レベルを設定することとする。製造業で働く外国人にとっては、その職場での「あらかじめ決まっているような状況、短い会話」や「簡単な日常の課題」を学習内容として、その内容が学習しやすい方法を提案する。外国人集住地区における学習内容も同様である。集住地区で課題となっているゴミや駐車場問題などについて提案したりその提案に応じたりする能力を学習する内容とする。同時に、教室でもこのような内容を話し合うことで学習を進めると同時に、社会参加のきっかけとなることを期待する。このように、日本語学習を通じて、社会参加、社会変革のきっかけを創り出すことを目標とする。

1.6 豊田市学習支援システムの対象

学齢期にある年少者の不就学、学力不足等の問題は非常に大きな問題である。しかし、これらの問題は年少者に対する学習支援環境を整えるだけでは解決しない問題である。まず、彼らの保護者が子供の教育や学校に対する考え方、地域社会に対する意識を変えることが必要である。本プロジェクトでは全ての地域在住外国人が「周囲の支援に基づいて基礎的な社会参加が日本語で行える」能力を身につけることを目標としている。子弟の教育について話したり、提案したり、学校からの提案に応じることも基礎的な社会参加には含まれる。まず、保護者の世代が社会に参加することによって、現在の地域社会の変化を生み出すことが重要である。このような考え方から、今回のプロジェクトで策定する日本語学習支援システムにおいては、学齢期にある年少者の学習支援ではなく成人外国人を対象としてシステムを策定することを第一の目標とする。

2. 「外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査」概要

2. 1 調査目的

地域コミュニティを維持・向上させるため、豊田市に在住する外国人及び受入機関・組織・地域における日本語使用状況、日本語学習環境の実態等予備調査を実施する。その結果に基づいて、外国人が地域社会で日常生活を営む上で最低限必要な日本語能力を習得するための日本語学習支援システムを提案する。

2. 2 調査の背景

これまで外国人の日本語学習の大きな課題として日本語学習の必要性を感じていないことが指摘されてきた。この原因として、日本語が話せなくても生活や仕事ができること、いずれ帰国するという意識があること、学習時間や学習場所がないことが挙げられてきた。それ以外にも、学習の目標や上達の進度が見えにくかったこと、日本語を学習してもその活用場所が限定されること、個々人の生活環境や興味・関心と密接に関連する実用的な日本語が教えられていないこともその原因として考えられる。

そこで、今回の調査では、日本語使用状況、学習環境を調査することで、これらの問題の解決 を図ることを目的とする。

- 1) 学習環境調査の結果に基づいて、外国人が日本語学習を継続していける学習環境を提案する。 これにより、学習時間や学習場所がないという原因の解決を図る。
- 2)日本語使用状況調査の結果に基づいて、豊田市に在住する外国人の日本語使用実態に合った学習内容を提供する。同時に、学習した日本語がすぐに活用できる場所も提示することができる。
- 3) 提案する日本語学習支援システムは、日本語がほとんどできない外国人が最低限必要な社会参加が日本語で行えるレベルに到達できるように支援するものである。学習する項目は、「スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねることができる」「日本人と時間や場所を決めて会う約束をすることができる」など「ある場所において、あることについて、一することができる」という形式で記述される。日本語学習を通して日本語で何ができるようになるかが明示されるので、外国人自身が学習目標や到達度、進度を確認できるようになる。

2. 3 調査対象者と調査方法

本調査の(A)調査対象者及び(B)調査方法は以下の通りである。

(A)調査対象者

- (ア) 外国人と接触機会がある公的機関・組織関係者
- (イ) 外国人が集住している地域コミュニティ関係者
 - ① コミュニティで外国人と接触のある地域住民
 - ② コミュニティに在住する外国人住民
- (ウ) 外国人が就業している企業関係者
 - ① 企業で外国人と接触のある日本人・通訳など
 - ② 企業で就業する外国人就業者

(B)調査方法

- (エ)アンケート調査
 - ① 日本語学習支援専門部会委員からの調査協力依頼
 - ② 催し物会場などにおける調査協力依頼

(才) 対面調査

- ① アンケート回答者のうち対面調査に応じてくれた方
- ② 外国人と接触機会がある公的機関・組織関係者

平成 19 年 10 月 21 日に開催された豊田市多文化共生推進協議会・第一回日本語学習支援専門部会において、専門部会委員に対して「外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査について」の概要を説明し、併せてアンケート調査及び対面調査の協力依頼も行った。

専門部会委員のうち、「(ア)外国人と接触機会がある公的機関・組織関係者」に該当する委員には対面調査対象者の人選を依頼した。「(イ) 外国人が集住している地域コミュニティ関係者」、「(ウ)外国人が就業している企業関係者」に該当する委員には、アンケート調査用紙の配布を依頼した。配布及び回収方法に関しては、専門部会委員の状況に合わせて、一括配布・回収、又は個別配布、郵送による回収などを選択した。

さらに、平成 19 年 11 月 10 日に豊田スタジアムで行われた J リーグの試合会場、11 月 11 日に行われた新保見交流館オープニングフェスティバル会場では、来場者にアンケート調査への協力を直接依頼した。

アンケート調査用紙の回収目標人数、対面調査の実施目標人数を以下に示す。

(ア) 外国人と接触機会がある公的機関・組織関係者

病院·市役所など外国人と接触の多い受付担当者、通訳、学校関係者で保護者との接触の多い日本語指導員など 10 名。

(イ) 外国人が集住している地域コミュニティ関係者

専門部会委員に依頼し、地域在住日本人と外国人にアンケート調査を依頼する。

	アンケート協力者計	対面調査合計
コミュニティで外国人と接触のある地域住民	50	10
コミュニティに在住する外国人住民	100	25

(ウ) 外国人が就業している企業関係者

専門部会委員に依頼し、各社日本人と外国人従業員(派遣社員含む)にアンケート調査 を依頼する。

	アンケート協力者計	対面調査合計
企業で外国人と接触のある日本人・通訳など	50	10
企業で就業する外国人就業者	100	25

2. 4 調査内容

調査内容は大きく(A)「受け入れ側(外国人と接触機会のある公的機関関係者、地域住民、企業 関係者)に対するもの」と(B)「外国人に対するもの」に分かれる。これらの内容は、アンケート 調査のみで調査したもの、対面調査のみで調査したもの、アンケート調査と対面調査両方で調査 したものがある。以下、受け入れ側に対する調査項目と外国人に対する調査項目を順に説明する。 このうち(ア)という印があるものはアンケート調査のみで調査したものであり、(対)という印が あるものは対面調査のみで調査したもの、(両)とあるものは両方で調査したものを指す。

2. 4. 1 受け入れ側に対する調査項目

1)調査対象者の背景情報

性別、年齢、職種、外国人との関係など、調査対象者の背景情報を調査するための項目である。

2) 日本語使用状況の実態

調査対象者と外国人との間で行われるコミュニケーションの頻度とその内容に関わる実態を把握するための項目であり、これらの項目はアンケート調査で質問が行われた。これらの項目は概要質問と項目別質問に分けられる。

概要質問とは「外国人住民、就業者とどの程度日本語によるコミュニケーションの機会がありますか」、「外国人住民、就業者とどのようなことについて話しますか」など、日本語使用状況の全体像を把握するための質問である。項目別質問とは「朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする」など、言語行動を具体的に記述したもの(以下、このような言語行動の記述を「Can

do statement」と呼ぶ)を見て、そのようなやりとりを外国人住民や外国人就業者と<u>日本語で</u>した 経験があるかを問うものである。この Can do statement の内容は、調査対象者別に以下の四種類 に分類される。

ア)地域コミュニティに関わる私的領域

- 例) 20. アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡する
 - 21. 近所の人にどこの病院がいいか尋ねる
 - 22. 団地の人にゴミの出し方について尋ねる

イ) 就業者に関わる職業領域

- 例) 21. 急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求める
 - 22. 体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る
 - 23. 作業上改善するといいと思う点について意見を言う

ウ)保護者に関わる教育領域

- 例) 32. 先生にうちでの子どもの様子を伝える
 - 33. 子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える
 - 34. 保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する

エ)対象者とは関わらない共通領域

- 例) 1.朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする
 - 2. バスの運転手に目的地を通るか尋ねる
 - 3. スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる

このうち、ア)は外国人が集住している地域コミュニティ関係者に対してのみ、イ)は外国人が 就業している企業関係者に対してのみ実施する。ウ)、エ)は全対象者に実施する。

3) 外国人の日本語能力の現状についての認識

外国人の日本語能力の現状についての受け入れ側関係者がどのように認識しているかを把握するための項目である。この項目も概要質問と項目別質問に分けられる。このうち、概要質問は対 面調査で、項目別質問はアンケート調査で質問されたものである。

概要質問とは、接触している外国人のうち全く日本語ができない外国人が何割ぐらいいると考えていて、単語レベルの意思伝達しかができない外国人が何割ぐらいいると受け入れ側関係者が考えているかなどの認識を把握するためのものである。項目別質問は、日本語使用状況の実態把握に使用したものと同じ Can do statement を見て、そのようなやりとりを受け入れ側関係者が接している外国人住民や外国人就業者ができると考えているかを問うものである。この Can do statement の内容も、上記同様、調査対象者別に四種類に分類されている。

4) 外国人の日本語能力についての希望・期待

外国人の日本語能力について受け入れ側関係者がどのような希望や期待を持っているかを把握

するための質問項目項目である。これらの項目には、対面調査で行われた概要質問とアンケート 調査で質問された項目別質問の二種類がある。

まず、対面調査においては、「外国人の人にはどの程度の日本語を出来るようになってもらいたいと考えていますか」などの概要質問を行った。この質問項目は、外国人にどの程度日本語ができるようになれば企業・地域内の人間関係や運営を上手く進めていけると受け入れ側関係者が考えているかを把握するためのものである。さらに、要支援レベルの日本語能力、つまり、企業・地域内の人間関係や運営を上手く進めていくために最低限必要なコミュニケーション行動を把握することを目的として、「企業・地域内の人間関係や運営を上手く進めていくために、外国人の人に最低限これくらいのことは日本語でできるようになってほしいという希望がありますか」という質問も行っている。

項目別質問は、日本語使用状況の実態把握に使用したものと同じ Can do statement を見て、そのようなやりとりを接している外国人住民や外国人就業者ができるようになってもらいたいと考えているかを問うものである。この Can do statement の内容は、上記同様、調査対象者別に四種類に分類される。

5) 日本語能力判定に対する期待と利用方法

とよた日本語学習支援システムではガイドラインに従った「とよた日本語能力判定」を構築していくことを計画の一部として立案している。この質問項目は、このような日本語能力判定に対して受け入れ側関係者のニーズがあるか、そして、そのような日本語能力判定が実際に行われた場合、利用方法があるかを把握するための質問項目である。具体的には、以下のような質問を対面調査において行う。

例)接触機会がある外国人がどの程度のコミュニケーションができるかを知っているのと知らないのでは、接し方が変わってくる可能性もあります。この人にはこれくらいの日本語なら通じるとか、この人は通訳が必要だ、などの測定があればいいと便利だとお考えですか。 そのような測定があれば、どのように利用されますか。

6) 学習環境提供についての可能性

外国人が集住している地域コミュニティや外国人が就業している企業で、外国人住民や外国人 就業者が容易に日本語の学習を始められ、継続可能な学習環境を提供可能か、そして、そのよう な学習環境構築に地域や企業の支援が得られる可能性があるかどうかを把握するためのものであ る。具体的には、以下のような質問を行う。

- 例)・企業・地域内の人間関係や運営を上手く進めていくために、外国人の人たちのための教室があったほうがいいと思いますか。
 - ・あったほうがいいとすれば、どのような時間帯、曜日、場所が都合がいいでしょうか
 - ・開設するために、繁忙期とかシフトなど問題となることはありますか。

・日本語教室で日本語を使って話をする交流の時間があったら、参加してみたいですか。

7)問題事例に関する経験と認識

外国人が集住している地域コミュニティや数多くの外国人が就業している企業では、外国人と受け入れ側との間に様々な問題が生じていると言われている。ここでは「ゴミの出し方」、「時間感覚の違い」などの問題事例を具体的に記述したものを見て、調査対象者に「そのような問題の経験があるかどうか」、「それらの問題は解決すべき問題であると認識しているか」、「外国人が日本語ができるようになることでそれらの問題が解決できると考えているか」という3点について質問している。さらに、問題事例の中で、今後の取り組みによって解決したいもののうち、優先順位の高いものを三つ挙げてもらっている。この問題事例の内容は、調査対象者別に以下の二種類に分類される。

- ア) 外国人が集住している地域コミュニティにおける問題事例
 - 例) 駐車

自治区や自治会などへの入会拒否 回覧板など地域の連絡の不徹底

- イ) 外国人が就業している企業における問題事例
 - 例) 事故、安全上の問題 時間感覚の違い 労働についての慣習、考え方の違い

8) 問題解決の方策についての認識

地域コミュニティや企業で抱えている外国人に関わる問題を解決するために、どのような対応 が必要だと考えているかを把握するための項目である。いくつかの対応策案の中から、地域や企 業で必要だと考えられる対応策を選択するものである。この対応策案も、調査対象者別に以下の 二種類に分類されている。

- ア) 外国人が集住している地域コミュニティにおける対応策案
 - 例) 日本人と外国人住民との交流会を開く 日本人に対して、外国文化や外国人の習慣についてのセミナーを開く
- イ) 外国人が就業している企業における対応策案
 - 例) 日本人と外国人従業員との交流会を開く 日本人従業員に対して、外国人の労働規範・考え方についてのセミナーを開く
- 2. 4. 2 外国人に対する調査項目
- 1)調査対象者の背景情報

性別、年齢、職種、滞在年数など、調査対象者の背景情報を調査するための項目である。

2)日本語学習実態

調査対象者の日本語学習の経験を把握するためのものである。質問では、過去に日本語を学習した経験があるか、現在日本語を学習しているかを質問し、その上で、学習経験がある対象者に対しては、どこで日本語を学習したかを質問している。また、現在、日本語を学習していない対象者に対しては、その理由を質問している。

3)日本語学習に対するニーズ

調査対象者が日本語学習に対してどのような希望、期待を持っているかを把握するための項目である。ここでは大きく、日本語学習ニーズ、学習環境ニーズ、学習目的ニーズ、学習項目ニーズについて質問をしている。

日本語学習ニーズとは、現在日本語を学習したいかどうかを把握するための項目である。次の学習環境ニーズとは、どこでどのくらい勉強したいか、または、どの時間帯であれば勉強できるかについて把握するための質問項目である。学習目的ニーズとは、何のために日本語を学習したいのかを質問するものであり、学習項目ニーズとは、日本語使用状況の実態把握に使用したものと同じ Can do statement を見て、そのようなやりとりができるようになりたいかを問うものである。この Can do statement の内容は、上記同様、調査対象者別に四種類に分類される。

4)日本語使用状況の実態

調査対象者と受け入れ側との間で行われるコミュニケーションの内容に関わる実態を把握する ための項目である。外国人に対しては、Can do statement を見て、そのようなやりとりを日本語 でした経験があるかを問う項目別質問のみが行われた。Can do statement の内容は、受け入れ側 に対する調査と同様、調査対象者別に四種類に分類されている。

5)日本語能力に対する認識

調査対象者が日本語使用状況の実態把握に使用したものと同じ Can do statement を見て、そのようなやりとりを日本語でできると考えているかを問うものである。この Can do statement の内容も、上記同様、調査対象者別に四種類に分類されている。

6)日本語能力判定に対するニーズ

この質問項目は、「とよた日本語能力判定」に対して外国人側のニーズがあるか、そして、そのような日本語能力判定が実際に行われた場合、その判定が学習動機形成に結びつくかを把握するためのものである。具体的には、以下のような質問を対面調査において行う。

例) 今回のプロジェクトでは、外国の人がそれぞれどのぐらい日本語が出来るのかを測る能

カチェックも行うことを視野にいれています。今あなたの日本語のレベルを知る方法があれば、その結果はあなたの日本語学習意欲に役に立ちますか。また、そのようなチェックを受けてみたいと思いますか。

7) 問題事例に関する経験と認識

ここでは、受け入れ側の調査で質問したものと同じ問題事例を見て、「そのような問題の経験があるかどうか」、「それらの問題は解決すべき問題であると認識しているか」、「外国人が日本語ができるようになることでそれらの問題が解決できると考えているか」という3点について質問している。さらに、問題事例の中で、今後の取り組みによって解決したいもののうち、優先順位の高いものを三つ挙げてもらっている。

8) 問題解決の方策についての認識

上記7)で指摘した問題を解決するために、どのような対応が必要だと考えているかを把握する ためのものである。これは、「問題を解決のために日本人にも知っていてもらいたいことは何で すか」という質問と、「問題を解決していくために、地域や企業でどのような対応が必要だと思 いますか」という質問が行われている。

引用文献

豊田市国際有識者会議(2007年9月3日)『「世界に開かれた国際都市」報告書』

吉島茂・大橋里枝(他)(訳・編)(2004)『外国語教育 II 外国語学習、教授、評価のためのヨーロッパ教育共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages:Learning, teaching, assessment』朝日出版社

第2章

調査結果

1. アンケート調査及び対面調査の結果概要

本節では、アンケート調査と対面調査から明らかになった結果を報告する。なお、Can do statement の調査結果に関しては、次節で報告する。

1. 1 調査実施概要

アンケート用紙回収数、及び回収率は以下の通りである。なお、このアンケート調査用紙は、2008年2月29日を回収期限としている。

	受け入れ側	外国人	総数
アンケート配布数	118	693	811
アンケート回収数	87	247	334
(受け入れ地域コミュニティ関係者)	65	176	241
(受け入れ企業関係者)	22	71	93
アンケート回収率	74%	36%	41%

表1 アンケート用紙回収結果

この回収結果では、受け入れ側、外国人双方において、アンケート回収数の7割以上を地域コ ミュニティからのものが占めていることに留意する必要がある。

表2は2008年2月29日現在の対面調査実施数である。

	受け入れ側	外国人	公的機関
対面調査予定者数(3月上旬まで)	20	50	10
対面調査実施数	20	38	24

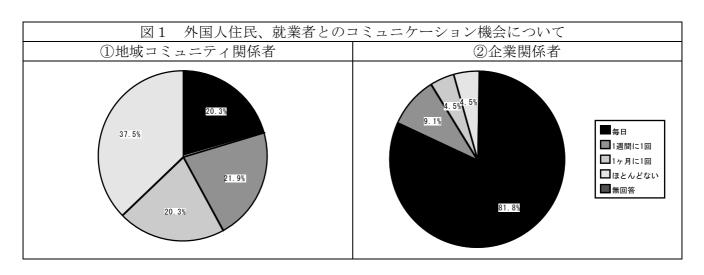
表 2 对面調査実施結果

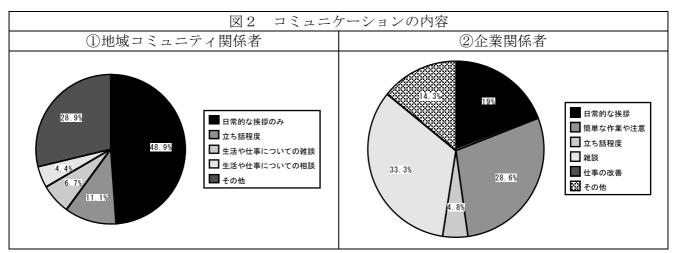
1. 2 調査結果

1. 2. 1 受け入れ側に対する調査項目

9) 日本語使用状況の実態

図1、図2は「外国人住民、就業者とどの程度日本語によるコミュニケーションの機会がありますか」、「外国人住民、就業者とどのようなことについて話しますか」という質問に対する回答結果である。地域コミュニティ関係者の結果を見ると、6割近くの人が、1ヶ月に1回程度しか、ほとんど外国人とコミュニケーションの機会を持っていない人であることがわかる。さらに、コミュニケーションの機会があったとしても、その半数近くが「日常的な挨拶」しか行っていない。今回のアンケートでは比較的外国人と接触のある方に調査協力を依頼しているにも関わらず、地域コミュニティにおいては、地域住民と外国人住民との間で日本語によるコミュニケーションの機会がないことがこの結果からわかる。





一方、企業においては8割以上が毎日、あるいは1週間に1回程度は外国人就業者と日本語によるコミュニケーションの機会を持っている。しかし、その内容は、2割弱が日常的な挨拶、3割弱が簡単な作業や注意といった定型的なコミュニケーションに限られている。

外国人と受け入れ側関係者との間の相互理解を進めていくためには、挨拶など定型的なコミュニケーションだけではなく、お互いの生活や仕事について話す機会を持つ人の割合が増加できるようなシステムを考えていく必要がある。

10) 外国人の日本語能力の現状についての認識

外国人の日本語能力について受け入れ側関係者がどのように認識しているかを把握するため、 対面調査において「接触している外国人のうち何割ぐらいの人が全く日本語ができないと考えて いますか」、「何割ぐらいの人が単語レベルの意思伝達ができると考えていますか」などの質問 を行った。表3はその結果である。

表から受け入れ側関係者の多くが8割ぐらいの人が日本語ができないと認識していることがわかる(下線部参照)。

	表3 外国人の日本語能力の現状についての認識
教育関係者	① 通訳に頼る人が8割、片言で言えるのが2割
	② 通訳なしで日本語が話せる外国人は1割程度
	③ 幼稚園の途中入園の申し込みは毎月20~30人、そのうち外国人
	は1割で、通訳が必要。
公的機関	④ 外国人のうち約8割程度日本語が通じず、その割合はここ3年
窓口業務担当者	<u>変わっていない</u> 。それは外国人は定着せずすぐに移動するから。
	⑤ 市役所に来る外国人のうち約2~3割が通訳を必要とする外国人
	で、 <u>その割合は徐々に増えている</u> 。
病院関係者	⑥ 病院に来る外国人は1日50~60人。受付に翻訳つき申し込み用
	紙(資料)があるので、それに書き込んでもらうが、それもせず、は
	じめから通訳の名前を言ってくる患者も多い。
	⑦ 日本語がわかる場合でも通訳を求めてくる。 <u>通訳を求める人は</u>
	外国人全体の8割。
企業関係者	8 外国人のうち <u>挨拶程度ができる人が7~8割、本当にコミュニケ</u>
	<u>ーションできる人は2割いるかいないか</u> 。読み書きができる人は1割
	未満。
	⑨ 会社内の外国人で <u>仕事上問題ないくらいの日本語ができる人が</u>
	7割、できない人が3割

但し、その認識の差も存在する。例えば、「通訳を必要とする外国人は約2~3割」、「仕事上問題ないくらいの日本語ができる人が7割」という回答もある(波下線部参照)。これらの回答は公的機関の窓口業務担当者、企業受け入れ担当者の対面調査で出てきたものである。窓口によっては、あるいは職場によってはある程度定型的な表現を覚えれば仕事には差し支えないためにこのように認識しているのではないかと考えられる。また「日本語ができない外国人の割合は変わっていない」と認識している人がいると同時に「増えている」と認識している人もいる(二重下線部参照)。これらの回答は同一公的機関の異なる窓口業務担当者から出てきたものである。この結果から、窓口によって、求められる日本語やコミュニケーション行動の質、レベルが異なっているとも推測される。なお、枠内は同一人物からの回答ではなく、同様の立場の人からの回答をまとめたものである。

11) 外国人の日本語能力についての希望・期待

表4は「企業・地域内の人間関係や運営を上手く進めていくために、外国人の人にはどの程度 日本語ができるようになってもらいたいと考えていますか」という質問の回答結果である。その 結果、日本国内で長期的に就業を続けていくためには日本語が必要であるという回答が多数得ら れた。特に、公的機関の窓口担当者や企業の人事担当者との対面調査では、直接雇用を希望する 場合には日本語能力は不可欠であるという強い意見が寄せられた。

	表4 外国人の日本語能力についての希望・期待
公的機関	⑩ 日本語学習の機会を支援する場は絶対に必要。ちょっとした言
窓口業務担当者	葉の不適切さでトラブルになることは少なくない。

	① 外国人が職を得るために必要なのは日本語能力。それができれ ばある程度職を紹介できる。
企業人事担当	② ラインでのコミュニケーションは不可欠で、日本語ができない
	とラインに入れられないので、困っている。能力の向上が望まれる。

さらに、「外国の人に最低限これくらいのことは日本語でできるようになってほしいという希望がありますか」という質問に対しては表5のような回答が得られた。これを見ると、トラブルを解消するために、1)感謝や謝罪の表現が使えること、2)自分自身に関わる情報が伝えられること、3)窓口や企業などで欠席や来訪の目的や理由などの用件が伝えられること、4)企業や地域コミュニティで最低限必要な情報を理解できることが求められていることがわかる。さらに、交流の機会を増やすために、お互いの情報が交換できるようになってほしいと期待していることも示唆される。

表 5 員	最低限必要な日本語によるコミュニケーション行動について
共通項目	⑬ 「ごめんなさい」「ありがとう」などのコミュニケーションの
	基本的な言葉が使える(トラブルがあってもこれが言えることによって
	とりあえず収まりがつく)。
	⑭ 自己紹介(名前、住所、職場の住所、生年月日、~の仕事をした
	ことがあるか)ができる(子供に何かあったときに連絡できないと困
	る。)
用件を伝える	⑤ 「~の書類がほしい」など自分が何をしに窓口に来たかが言え
	る。
	⑥ いつから痛いのか、どこの部分が痛いのか、どうしてそうなっ
	たのかの3つを言える。
	☞ 欠席の理由を伝えたり欠席を早めに伝えたりできる(通訳にまか
	せっきりで、日本人との関係は作れていない。)
情報収集・理解	⑱ 仕事の手順などの会社用語が理解できる(できるようになれば不 ┃
	安がらずに仕事ができるはず)
	⑩ 「ここに(名前を)書いてください」などが理解できる
	② 数字、ひらがな・カタカナが理解できる。
	21 町内清掃の参加を呼びかけを聞いて日時、場所が理解できる。
	22 回覧板の内容・目的が理解できる。
	23 バス、電車のアナウンス、道案内が理解できる。
	24 災害時などテレビのニュース番組を聴いて理解できる。
交流	25 「何をしたか」「どこへ行くのか」など簡単な日本語は話せる
	ようになるといい(ちょっとしたことでも話してみたい)。

12)日本語能力判定に対するニーズ

日本語能力判定に対して受け入れ側関係者のニーズがあるか、そして、そのような日本語能力 判定が実際に行われた場合どのような利用方法があるかに関しては、表6に示すような意見が寄 せられた。まず、ニーズに関して言えば、ほとんどの調査対象者から必要性が認められるという 意見が寄せられた。そして、用途としては、大きく二つの用途があることが明らかになった。第 一は、企業などで外国人を採用する際の基準として用いるというものである。現在、人事担当者 や面接担当者が客観的な評価基準がないまま、必要に迫られて日本語能力判定を行っていること、 そして、その日本語能力判定の妥当性や信頼性について自信が持てないことがあるため、ぜひ利 用したいという意見が寄せられた。第二の用途として挙げられたのは、初対面の相手との接し方 を判断する材料となるというものである。なお、表内の意見は同一人物からの回答ではなく、同 様の立場の人からの回答をまとめたものである。

	表 6 日本語能力判定に対するニーズ
職業関係機関	26 証明書のようなものがあると便利。会社にも紹介しやすいし、
	話を進める上でも有利になる。
企業関係者	27 証明書のようなものがあると採用の際役立つ。特に会話のレベ
	ル判定。
	28 あったほうが最初の接し方が変わってくるので、便利。

13) 学習環境提供についての可能性

地域コミュニティや企業で、外国人住民や外国人就業者が容易に日本語の学習を始められ、継続可能な学習環境を提供可能か、そして、そのような学習環境構築に地域や企業の支援が得られる可能性があるかどうかについては、表7のような意見が寄せられた。企業関係者からは離職率が高い現状から安定した雇用を図るための対策として日本語教室を開設することも可能であると意見が寄せられた。同時に、日本語教室が開設されれば時間の許す限り個人として参加したいという希望を述べる方もいた。同じように地域コミュニティ関係者からもできるだけ外国人住民も地域の一員として定住化を図ってほしいという意見が寄せられた。そのためには、集会所などの場所の提供も可能であるし、教室への参加も可能であるという希望が述べられている。

表7 学習環境提供についての可能性		
企業関係者	29 派遣社員はすぐに会社に飽きてしまい、離職率も高い。日本語	
	教室が会社内にあれば、この会社を好きになってずっといてくれるか	
	もしれないし、そういう意味でも日本語教室は開きたい。場所も用意	
	できる。	
	30 日本語を勉強したいという要望は多い。家に帰って日本語教室	
	に行くのはなかなかできない。会社に作ることが必要。昼勤と夜勤の	
	間の時間なら大丈夫。	
	31 外国人側に歩み寄る行為を見せると、向こうも近づいて来てく	
	れるという経験がある。簡単なポルトガル語を話せるようになるこ	
	と、日本語教室に顔を出すことも必要。	
地域関係者	32 もし交流会、教室などで場所が必要なのであれば、集会所は安	
	く貸すことができる。	

14)問題事例に関する経験と認識

①地域コミュニティ関係者

図3〜図5は、外国人が集住している地域コミュニティに存在すると言われている問題事例について「そのような問題に遭遇した経験があるか」、「それらの問題は解決すべき問題であると認識しているか」、「外国人が日本語ができるようになることでそれらの問題が解決できると考えているか」という3点について質問した結果である。

質問項目は、大きく清掃活動や自治会への入会など相互の交流の要素を含む問題事例と、騒音、 駐車、ゴミの出し方など生活規範に関わる問題事例の二つがある。図3〜図4からゴミの出し方、 駐車、騒音など生活規範に関わる問題事例のほうが遭遇した経験者も多く(65〜71%)、それらの 問題点は解決すべきだと認識している人も9割以上ある。しかし、外国人が日本語ができるようになることでそれらの問題が解決できると考えているかという質問に対しては、交流の要素を含む問題事例のほうが解決可能だと考えている人が多い。



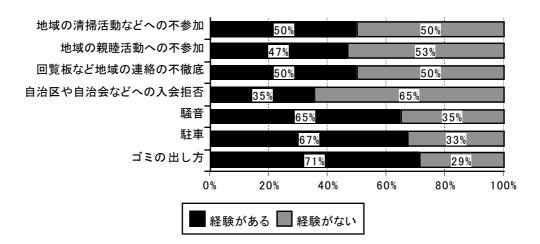


図4 解決すべき問題だと認識しているかについて

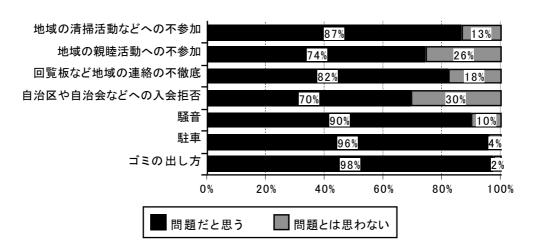
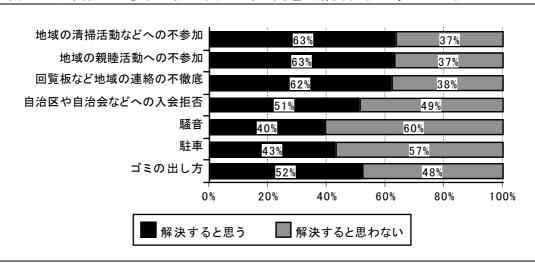


図5 日本語ができるようになればその問題は解決すると考えているかについて



これらの結果から、「回覧板など地域の連絡の不徹底」、「地域の親睦活動への不参加」、

「地域の清掃活動などへの不参加」など相互の交流を含む問題事例は外国籍住民の日本語能力の 向上により解決可能な問題事例であり、「駐車」、「騒音」、「ゴミの出し方」など生活規範に 関わる問題事例については、外国籍住民の日本語能力の向上が解決のきっかけとなりうる問題事 例であると考えることができる。

外国人の日本語能力の向上が、地域コミュニティが抱える問題の解決のきっかけとなるという 指摘は、自由記述でも多数寄せられている。それらの意見の一部を表8に示す

表8 日本語能力の向上と問題解決の関係について

- 33 国民性の違いがあり、日本語が出来れば解決できる問題とは思えないが、<u>解決に向かう</u>きっかけにはなると思います。
- 34 自治区が行う行事などに積極的に参加をしてほしい。日常的には日本語が話せる人も多いのですが、都合が悪くなると話せないと逃げる。<u>こういう状況を少しだけ互いに歩み寄りい</u>い環境に持って行きたい。
- 35 外国人ともう少し人間的なやりとりがしてみたい。言葉ができれば親近感がわく。
- 36 言葉の問題ではなく、お互いを思いやる気持ちの問題だと思います。
- 37 日常会話くらいはできるといい。少しでも話ができると近い関係になれる。

②企業関係者

図6〜図8は、外国人が就業している企業に存在すると言われている問題事例について「そのような問題に遭遇した経験があるか」、「それらの問題は解決すべき問題であると認識しているか」、「外国人が日本語ができるようになることでそれらの問題が解決できると考えているか」という3点について質問した結果である。

この結果は、地域コミュニティ関係者の回答とは少し異なった傾向を見せている。遭遇した経験の最も多い問題事例は「労働についての慣習、考え方の違い」の70%であるが、外国人が日本語ができるようになることでこの問題が解決すると考えている人は25%しかいない。「規則の不徹底」、「時間感覚の違い」についても類似した傾向が見られ、それらの問題に遭遇した経験がある意図は6割以上存在するが、日本語能力の向上が問題解決の対策となると考えている人は3割台である。これに対して「作業上のミス」、「事故、安全上の問題」、「日本人従業員との人間関係」という問題事例は、半数以上の人が遭遇した経験を持ち、5割~7割の人が日本語能力の向上が問題解決の対策となりうると考えている。

これらの結果から、「作業上のミス」、「事故、安全上の問題」、「日本人従業員との人間関係」などことばが関わる問題事例は外国人従業員の日本語能力の向上により解決可能な問題事例であり、「労働についての慣習、考え方の違い」、「規則の不徹底」、「時間感覚の違い」など考え方、労働習慣に関わる問題事例については、外国人従業員の日本語能力の向上が解決のきっかけとなりうる問題事例であると考えることができる。



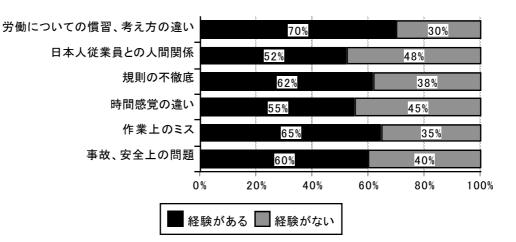


図7 解決すべき問題だと認識しているかについて

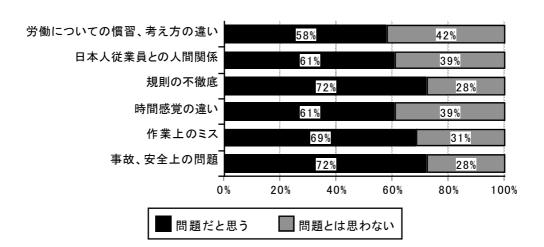
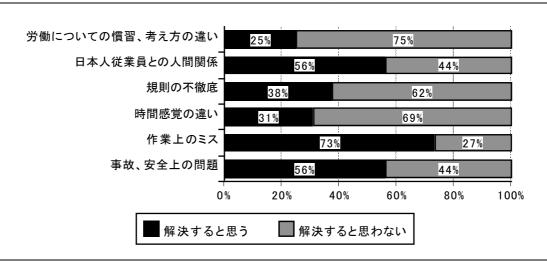
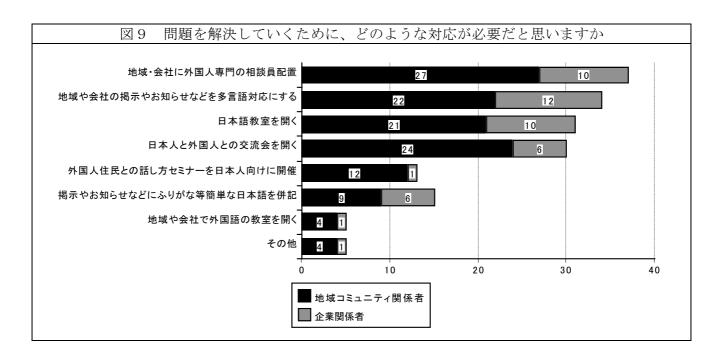


図8 日本語ができるようになればその問題は解決すると考えているかについて



15)問題解決の方策についての認識

地域コミュニティや企業で抱えている問題を解決するために、どのような対応が必要だと考えているかについては、図9に示す結果が得られた。この結果では問題解決の方向性として大きく二つの可能性が示されている。第一は相談員や多言語サービスの充実により問題解決を図るという方向性であり、第二は、「日本語教室の開設」、「交流会の開催」により問題解決を図るという方向性である。



上記の結果が示すように、通訳や相談員の配置、お知らせなどの多言語対応を求める声も多い。 但し、現状でこの施策を進めていけば、最低限のコミュニケーションも通訳や翻訳に頼り、担当 者が忙殺され、本当に必要な業務にかける時間が減少するだけではなく、日本語が出来ない外国 籍住民と日本人との分離、二極化が進む可能性を指摘する声も数多く挙がっている。

	表 9 通訳・相談員の配置/ 多言語サービスの充実の弊害
教育関係者	38 通訳に頼りすぎている状況では、負担が多すぎる。そういうものが整
	理されるといい。
	39 学校は通訳に頼りすぎ。通訳がプラスにならないことがある。子供が
	通訳を頼りすぎてしまい、先生の質問も日本語でできるのにポルトガル語で
	通訳を通して答える。わからない言葉も自分で調べないし、辞書も持ってい
	ない。子供たちにはプラスにならない。
	40 電話でも用件を聞く前に「通訳お願いします」と言われる。片言でも
	いいから担任と直接話が出来ることがベスト。
公的機関	41 外国人は通訳に依存しすぎている。今はあまりにも便利すぎ。外国人
	の数は増えていくのだから、通訳を増やしてもきりがない。学習する機会を
	作るべき。
	42 翻訳版が置いてあるにもかかわらず、通訳のところにまず来る。例も
	置いてあるが見てもらえない。
	43 日本語がわかる場合でも通訳を求めてくる。

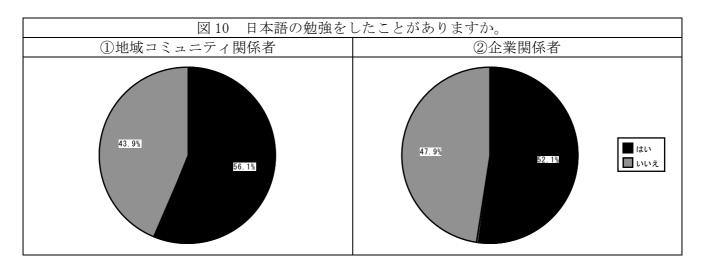
一方、外国人の日本語能力の向上、交流機会の増加による効果を指摘する意見も多数寄せられている。

表 10 日本語能力の向上/交流機会の増加による効果		
教育機関	44 親が日本語に興味を持って勉強して、子供とコミュニケーションを取	
	れるようになれば子供の日本語も上達する。	
	45 日本人と外国人の保護者の交流の場があればいい。そこで日本語を教	
	えることも可能	
地域関係者	46 日本人と外国人の保護者の交流の場があればいい。そこで日本語を教	
	えることも可能	
	47 言葉ですべて解決できるわけではないが、言葉は必要。学びたいとき	
	に学べるところがあることは必要。また行事の時だけの交流は不可能で、日	
	常に近い形で接点を持つには日本語教室しかない。	
	48 自分の利益のため、地域的な問題を解決するための情報交換ができる	
	場所としても必要。	
	49 日本語学習の機会を支援する場は絶対に必要。ちょっとした言葉の不	
	適切さでトラブルになることは少なくない。	
	50 お互いの言葉を少しでもわかるように努力することが大事	
	51 日本人のために外国人との接し方、話し方のセミナーを開くことも重	
	要。日本人と外国人が歩み寄ることが必要	
企業関係者	52 外国人側に歩み寄る行為を見せると、向こうも近づいて来てくれると	
	いう経験がある。簡単なポルトガル語を話せるようになること、日本語教室	
	に顔を出すことも必要。	

外国人に対する調査項目

9)日本語学習実態

図 10、図 11 は「日本語の勉強をしたことがありますか」、「今日本語の勉強をしていますか」という質問に対する回答結果である。図 10 から若干の差はあるものの現在の状況にかかわらず過去には日本語の勉強をしたことがある人が半数以上いることがわかる。しかしながら、現在の学習状況は対象グループによってその傾向が異なる。図 11 は、地域コミュニティ関係者では 4 割強が現在日本語の勉強をしているにも関わらず、企業関係者においてはその割合が半分程度の 2 割強しか勉強していないことを示している。この結果は、企業就労者の場合には、一度日本語の勉強を始めてもなかなかその継続が難しいことを示唆するものである。



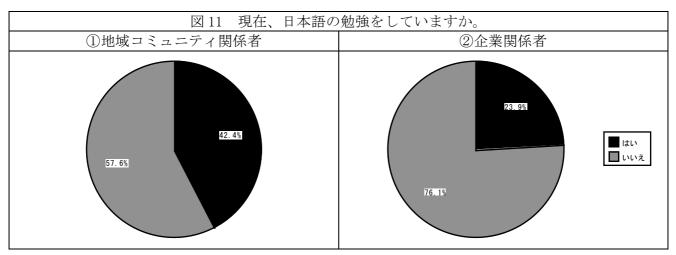
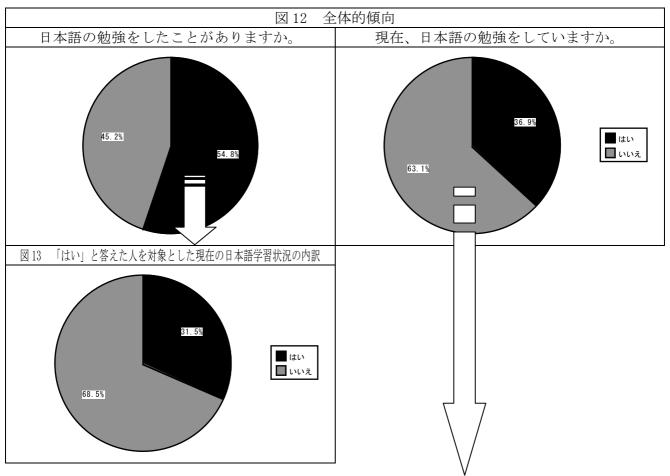
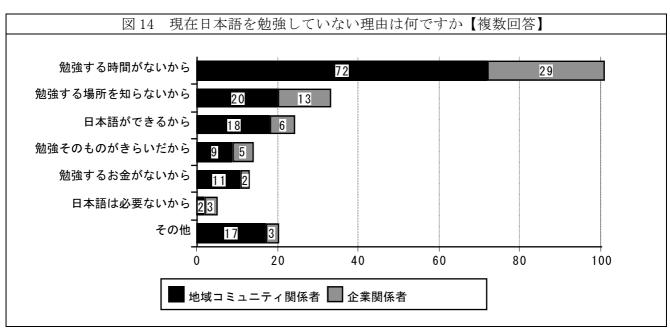


図12は、図10、図11の地域コミュニティ関係者、企業関係者の回答を合計したものである。 図13は「日本語を勉強したことがある」人を対象とした現在の日本語学習状況の内訳であり、図 14は「現在日本語を勉強していない」人を対象とした「勉強していない理由」を質問に対する回 答結果である。さらに、図15は現在日本語を勉強している人がどこで(どうやって)日本語を学習 しているかを質問した回答の結果を示している。





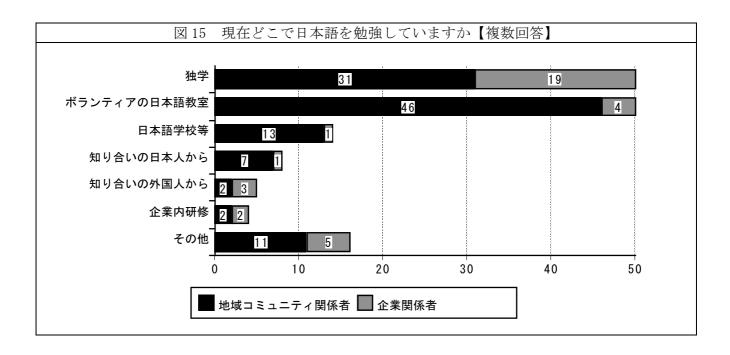
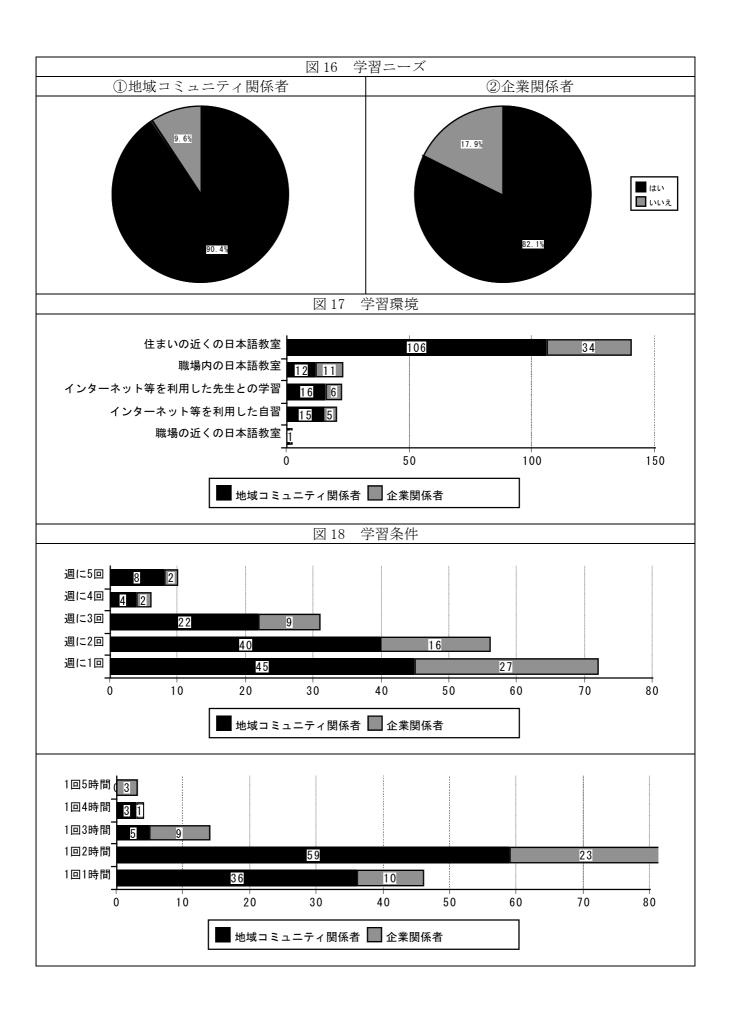


図12、13 は、半数を超える 55%の人がかつて一度は日本語の勉強を始めたにもかかわらず、そのうち7割弱が現在日本語を学習していないという学習状況を示している。この結果から、日本語学習継続の困難さが示唆される。さらに、図14 は、日本語を学習していない、あるいは継続できない最大の理由が「勉強する時間がない」であり、次に多いのが「場所を知らない」という結果を示している。この結果からも、外国人が学習時間と学習環境を確保することが非常に難しいことが理解できる。さらに、図15 から現在日本語を学習している人であっても、その多くが「独学」であるということも学習環境の確保の困難さを示すものであろう。言葉の学習をコミュニケーションを行う能力を身に付けることであると考えた場合、やはり言葉を使ってやりとりしながら能力を身に付けていくことが必要である。しかし、独学ではこのようなやりとりを行うことは難しいと考えられる。

10)日本語学習に対するニーズ

図16、図17、図18は「日本語を勉強したいと思いますか」、「どんな場所なら勉強したいと思いますか」、「どのぐらいの頻度なら勉強できますか」という質問に対する回答結果である。

外国人集住地区に居住する外国人は日本語を話せなくても生活や仕事ができるため、日本語学習の必要性を感じていないとよく言われている。しかし、8割以上の人が日本語の学習を希望しているという図16の結果は、この一般的な認識を否定するものである。では、どのような学習環境であれば日本語の学習を容易に開始でき、かつ継続できるのであろうか。図17、図18の結果から、多くの人が「住まいの近くの日本語教室」で日本語学習を希望しており、週1回2時間程度であれば学習が可能であることがわかる。



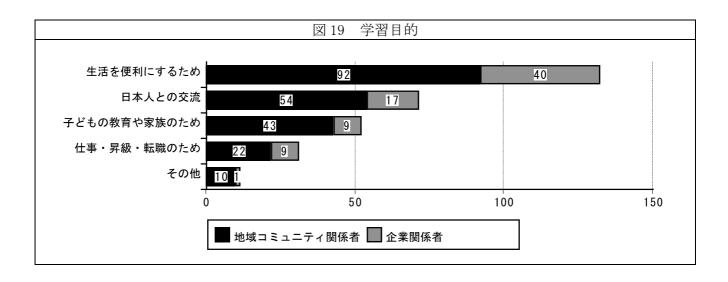
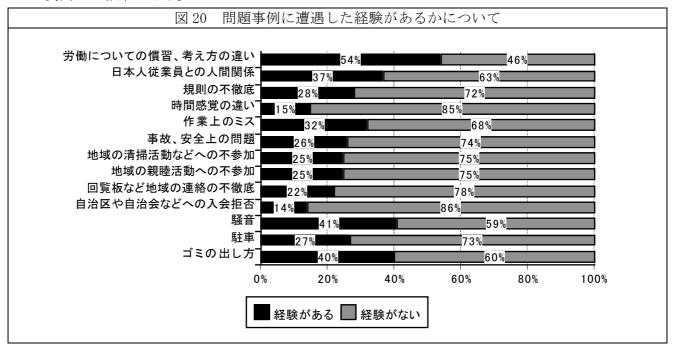
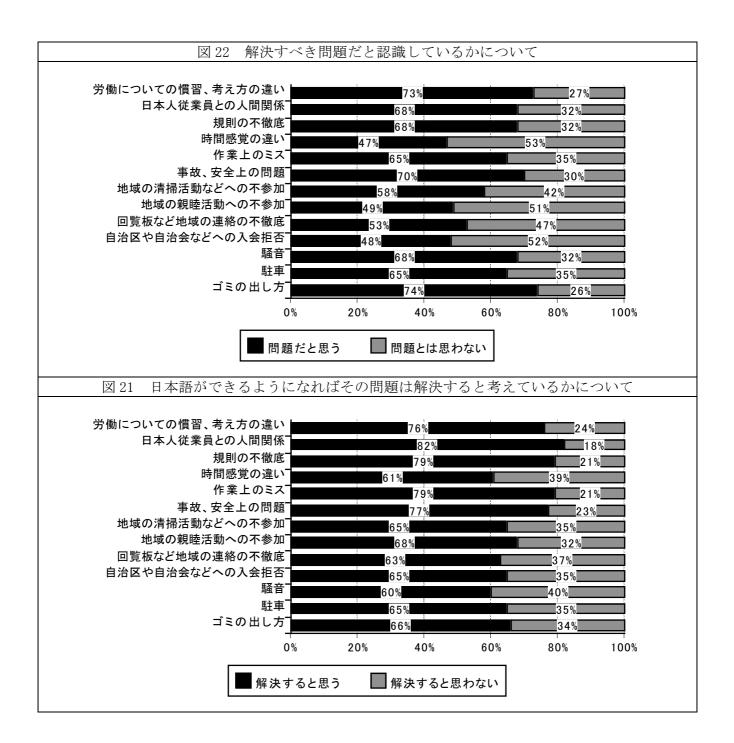


図 19 は「何のために日本語を学習したいですか」という質問に対する回答結果である。この図では、「生活を便利にするため」、「日本人との交流」、「子供の教育や家族のため」という学習目的が上位を占めている。この結果から、とよた日本語学習支援システムは「自分自身や家族のよりより生活を実現すると同時に、日本人との交流が行えるようになるための日本語能力」を育成するための学習内容を提供していくことが求められていると考えられる。

11)問題事例に関する経験と認識

図 20〜図 22 は、受け入れ側の調査で質問したものと同じ問題事例を見て「そのような問題に遭遇した経験があるか」、「それらの問題は解決すべき問題であると認識しているか」、「外国人が日本語ができるようになることでそれらの問題が解決できると考えているか」という3点について質問した結果である。





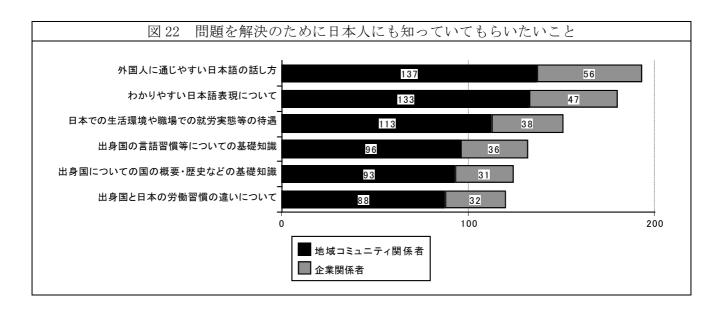
この結果は、受け入れ側の調査結果と類似した傾向を見せる部分と異なった傾向を見せる部分がある。まず、図20が示す問題事例に遭遇した経験は受け入れ側に比べて全体的に少なく、5割を越えるものは「労働についての慣習、考え方の違い」の54%だけである。以下、4割台で「騒音」、「ゴミの出し方」が続く。「労働についての慣習、考え方の違い」が最も多いという結果は受け入れ企業関係者の結果と同様であるし、「騒音」、「ゴミの出し方」などの問題事例との遭遇経験が多いという結果は受け入れ地域コミュニティ関係者と同様である。図21では「ゴミの出し方」、「事故、安全上の問題」、「労働についての慣習、考え方の違い」を解決すべき問題だと考えている人が7割を越えているが、それ以外は6割台である。この結果は受け入れ企業関係者の結果と同様の傾向を示している。一方、「日本語ができるようになれば問題は解決すると

考えていますか」に対する結果は、受け入れ側よりも「解決すると思う」と答えている人が多い。 日本語能力の向上によって「日本人従業員との人間関係」が改善すると思うと答えた人が82%で 最も多く、以下「規則の不徹底」、「作業上のミス」、「事故、安全上の問題」、「労働につい ての慣習、考え方の違い」が7割台でこれに続く。

以上の結果は、外国人側のほうが問題事例との遭遇機会は少ないにもかかわらず、受け入れ日本人社会以上に問題解決の方策として日本語能力の向上を求めていることを示唆するものであろう。

12)問題解決の方策についての認識

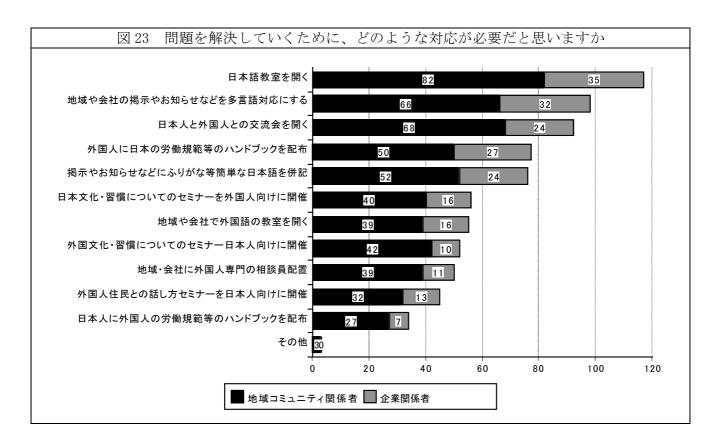
図 22 は「問題解決のために日本人にも知っていてもらいたいことは何ですか」という質問に対する回答結果である。この図から、日本人に知っていてもらいたいことの上位を占めるものが出身国についての知識や現在の就労実態などではなく、「外国人に通じやすい日本語の話し方」と「わかりやすい日本語表現について」であることがわかる。



外国人にわかりやすい表現や話し方をすることによって、日本語能力の低い外国人とでもコミュニケーションが可能であるという指摘は表 11 のように受け入れ側の日本人からも寄せられている。

表 11 日本語能力の向上/交流機会の増加による効果		
公的機関	53 「ネームOK?」「ビザOK?」など極力簡単な言葉で聞けば大体理	
	解し、「はいはい」と言っている	
企業関係者	54 50%くらい理解できる人であれば、噛み砕いた日本語にして言えば理	
	解できる。しかし、噛み砕いて言える班長は少ない。	

図 23 は「問題を解決していくために、地域や企業でどのような対応が必要だと思いますか」という質問に対する回答結果である。受け入れ側の回答と同様、「日本語教室の開設」、「交流会の開催」など教育、交流により問題解決を図るという回答と、「掲示、お知らせなどを多言語対応にする」、「簡単な日本を併記」など多言語サービスの充実により問題解決を図るという回答が上位を占めている。



上記の結果から、地域に在住したり就業したりしている外国人との多文化共生社会を構築していくためには、多言語サービスや相談員の充実を図ると同時に、「交流の要素を兼ね備えた日本語教室」を開設していくことが求められていると考えられる。

2. Can-do-statements 調査の結果概要

2. 1. 日本語使用状況の実態

外国籍住民と日本人との間で行われるコミュニケーションの頻度とその内容に関わる実態を把握するために、アンケート調査が行われた。「朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする」など、言語行動を具体的に記述したもの(以下、このような言語行動の記述を Can-do-statements と呼ぶ)を見て、そのようなやりとりを外国人住民が日本語でした経験があるかを問うものである。この Can-do-statements の内容は、調査対象者別に以下の四種類に分類される。

- 1) 全対象者共通の一般領域(項目番号1~17)
 - 例) 1. 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする
 - 2. バスの運転手に目的地を通るか尋ねる
 - 3. スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる
- 2) 地域コミュニティに関わる私的領域(項目番号 18~30)
 - 例) 20. アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡する
 - 21. 近所の人にどこの病院がいいか尋ねる
 - 22. 団地の人にゴミの出し方について尋ねる
- 3) 就業者に関わる職業領域(項目番号18~30)
 - 例) 21. 急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求める
 - 22. 体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る
 - 23. 作業上改善するといいと思う点について意見を言う
- 4) 保護者に関わる教育領域(項目番号31~43)
 - 例) 32. 先生にうちでの子どもの様子を伝える
 - 33. 子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える
 - 34. 保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する

このうち、2)は外国人が集住している地域コミュニティ関係者に対してのみ、3)は外国人が就業している企業関係者に対してのみ実施する。1)、4)は全対象者に実施する。なお、アンケートは対象者の母語(ポルトガル語、スペイン語、中国語、タガログ語)で実施された。

対象者:アンケート回収数:247名(男性:108、女性:128、無記入:11)

質問 あなたは日本語で、次のような経験をしたことがありますか?

選択肢 1:まったくない

2:あまりない

3:ある

4:よくある

結果

図1、表1に示すように、全対象者による一般項目では挨拶や自分の名前の読み書きは頻繁に遭遇する場面で、それ以外も半数以上の項目で「3:ある」をつけているものが50%を上回る。特に「11:車内アナウンスを聞いて目的地で降りる」、「14:駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う」などの乗り物関連や「3:スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる」のような買い物の場面、また、簡単な自己紹介が比較的多く遭遇する日本語使用の場面のようである。

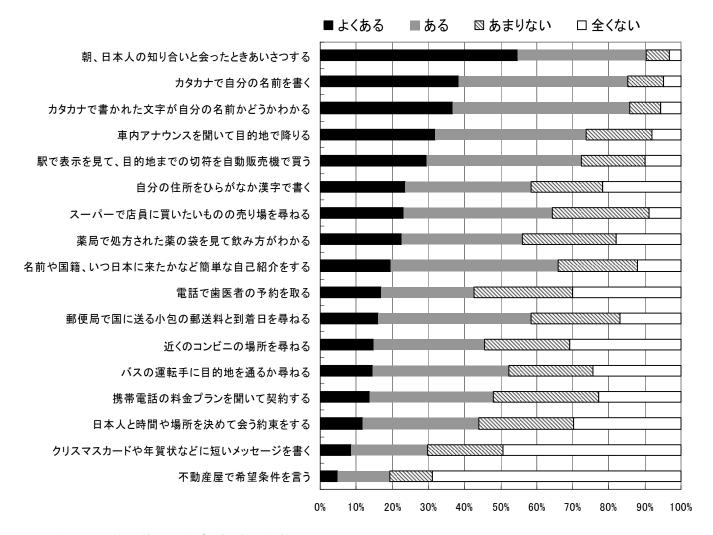


表1. 日本語使用の頻度(一般項目)

4:よくある、3:ある、2:あまりない、1:全くない

4		人数	平均	4	3	2	1
1	朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする	218	3.41	118	78	15	7
2	バスの運転手に目的地を通るか尋ねる	210	2.42	30	80	48	52
3	スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる	211	2.78	49	85	58	19
4	近くのコンビニの場所を尋ねる	214	2.29	31	66	51	66
5	郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる	209	2.56	33	88	52	36
6	名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする	210	2.72	41	96	47	26
7	日本人と時間や場所を決めて会う約束をする	201	2.24	23	64	53	61
8	電話で歯医者の予約を取る	208	2.28	35	53	56	64
9	不動産屋で希望条件を言う	199	1.54	9	28	24	138
10	カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる	205	3.16	74	101	18	12
11	車内アナウンスを聞いて目的地で降りる	205	2.97	65	85	38	17
12	携帯電話の料金プランを聞いて契約する	206	2.38	28	70	61	47
13	カタカナで自分の名前を書く	202	3.17	76	95	21	10
14	駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う	208	2.91	61	88	38	21
15	薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる	207	2.60	47	68	54	38
16	自分の住所をひらがなか漢字で書く	207	2.59	48	72	41	46
17	クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く	206	1.90	18	45	41	102

保護者関連の項目は、子どものいる対象者に限っているため回答者数は全体の約半数となっている。その中でも日本語に接触することが「あまりない」や「1:まったくない」と答えている人が約半数おり、子どもが保育園や学校に通っていないか、いても通訳などに頼った情報交換しかしていない人が多いことがうかがわれる。反面、半数の回答者は「よくある」「ある」と答えており、学齢期の子どものいる家庭では学校に関する日本語使用は切実な問題であることがうかがえる。

図2. 外国籍住民の日本語使用状況調査結果(保護者項目)

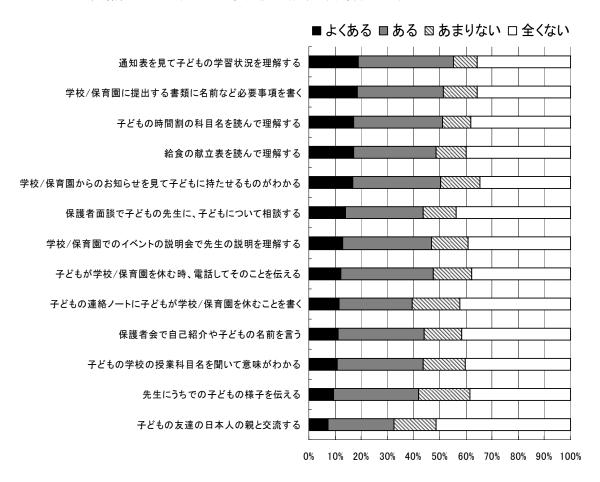


表2. 日本語使用の頻度(保護者項目)

4:よくある、3:ある、2:あまりない、1:全くない

		人数	平均	4	3	2	1
31	保護者会で自己紹介や子どもの名前を言う	113	2. 15	13	37	17	46
32	先生にうちでの子どもの様子を伝える	112	2.16	11	37	23	41
33	子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える	111	2.23	13	40	17	41
34	保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する	109	2.17	16	33	14	46
35	子どもの学校の授業科目名を聞いて意味がわかる	107	2.18	12	36	18	41
36	学校/保育園からのお知らせを見て子どもに持たせるものが	108	2.32	18	36	17	37
37	通知表を見て子どもの学習状況を理解する	107	2.38	20	39	10	38
38	子どもの時間割の科目名を読んで理解する	105	2.32	19	35	12	39
39	給食の献立表を読んで理解する	100	2.30	18	32	12	38
40	子どもの友達の日本人の親と交流する	106	1.92	8	28	17	53
41	学校/保育園でのイベントの説明会で先生の説明を理解する	102	2.25	14	35	15	38
42	子どもの連絡ノートに子どもが学校/保育園を休むことを書	106	2.12	13	31	18	44
43	学校/保育園に提出する書類に名前など必要事項を書く	102	2.36	19	34	14	35

地域コミュニティに関わる項目では、ファーストフードでの注文以外、全般に日本語使用頻度は それほど高くない。これは日常的に日本人住民と接触する機会が比較的少ないことによるものと考 えられる。それでも、掲示板や回覧板について周囲に聞いたり、買い物や病院について尋ねたりす ることがあると答えた人の割合が3割程度はあり、日本語ができるようになれば、この割合はさら に高くなると考えられる。

図3. 外国籍住民の日本語使用状況調査結果(地域コミュニティに関わる私的領域)

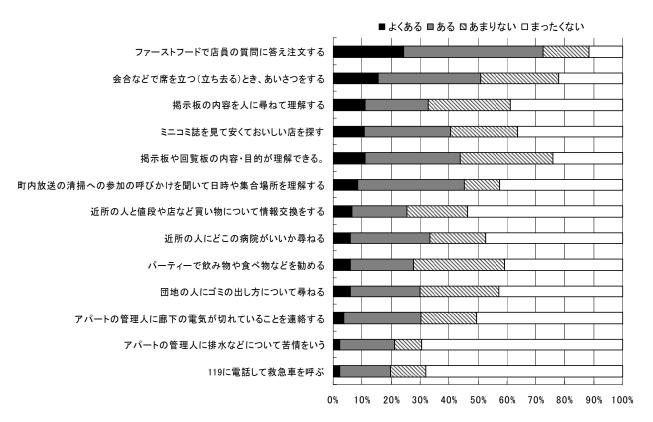


表3. 日本語使用の頻度(地域コミュニティに関わる領域)

4: よくある、3: ある、2: あまりない、1: 全くない

	コミュニティだけの項目	1	2	3	4	回答数	平均
28	ファーストフードで店員の質問に答え注文する	16	22	67	34	139	2.86
18	会合などで席を立つ(立ち去る)とき、あいさつをする	31	38	50	22	141	2.45
30	掲示板や回覧板の内容・目的が理解できる。	33	44	45	15	137	2.31
29	ミニコミ誌を見て安くておいしい店を探す	50	32	41	15	138	2.15
27	町内放送の清掃への参加の呼びかけを聞いて日時や集合	59	17	51	12	139	2.12
24	掲示板の内容を人に尋ねて理解する	53	39	30	15	137	2.05
22	団地の人にゴミの出し方について尋ねる	58	37	33	8	136	1.93
19	パーティーで飲み物や食べ物などを勧める	56	43	30	8	137	1.93
21	近所の人にどこの病院がいいか尋ねる	64	26	37	8	135	1.92
20	アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡す	70	27	37	5	139	1.83
23	近所の人と値段や店など買い物について情報交換をする	74	29	26	9	138	1.78
25	119に電話して救急車を呼ぶ	93	17	24	3	137	1.54
26	アパートの管理人に排水などについて苦情をいう	95	13	26	3	137	1.54

企業の中での日本語使用に関しては、就業中の作業内容に関する日本語使用が多い。日常生活の中ではあまり日本語を使わなくても、仕事の上では日本語で指示されたりすることが多く、また機械が止まったことや品物の不足など必要事項を決まった言葉で伝えるような日本語使用場面が多いことがうかがわれる。「職場内に張ってある簡単な注意書きなどを見て理解する」など文字の認識にかかわる活動が必要な人も6割以上いることがわかる。

図4. 外国籍住民の日本語使用状況調査結果(就業者に関わる職業領域)

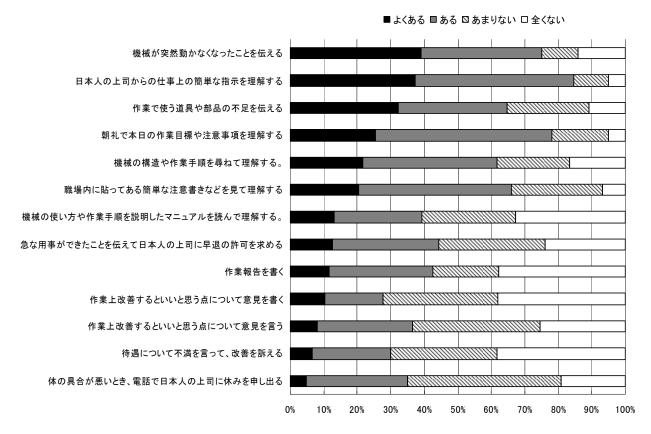


表4. 日本語使用の頻度(就業者に関わる職業領域) 4:よくある、3:ある、2:あまりない、1:全くない

	企業だけの項目	1	2	3	4	回答数	平均
28	日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する	3	6	28	22	59	3.17
18	機械が突然動かなくなったことを伝える	9	7	23	25	64	3.00
25	朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する	3	10	31	15	59	2.98
19	作業で使う道具や部品の不足を伝える	7	16	21	21	65	2.86
29	職場内に貼ってある簡単な注意書きなどを見て理解する	4	16	27	12	59	2.80
26	機械の構造や作業手順を尋ねて理解する。	10	13	24	13	60	2.67
21	急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求め	15	20	20	8	63	2.33
22	体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る	12	29	19	3	63	2.21
30	機械の使い方や作業手順を説明したマニュアルを読んで理解する	20	17	16	8	61	2.20
23	作業上改善するといいと思う点について意見を言う	16	24	18	5	63	2.19
27	作業報告を書く	23	12	19	7	61	2.16
20	作業上改善するといいと思う点について意見を書く	22	20	10	6	58	2.00
24	待遇について不満を言って、改善を訴える	23	19	14	4	60	1.98

以上、豊田市に住む外国人住民がどのような場面で日本語を使用しなくてはならないのか例示文を使って調査した。その結果、「朝、知り合いと会った時あいさつをする」など一般的領域の項目は比較的遭遇する機会が多く、挨拶レベルの接触は日本語で頻繁に行われているようである。自分の名前が見て認識したり、名前をカタカナで書いたりすることは8割以上の外国人住民が遭遇するとしている。しかし、具体的にものを尋ねるとか、約束(予約)するなどのコミュニケーション行動はそれほど多いとは言えない。

保護者としての日本語使用は該当者のみに答えてもらうように指示したが、100 名以上の回答者があった。このうち実際に学齢期の子どもを持つ人がどの程度含まれるかは不明であるが、回答者のうち約半数がすべての場面で一貫して日本語使用が必要だとしている。特に通知表や学校や保育園の連絡、給食の献立など日本語の文字を目にする機会が多いことがうかがえる。

地域コミュニティ領域の項目は全般に日本語使用の頻度が少なく、経験がある人が4割以下の項目が多い。したがって、地域ではほとんど日本語を使わずに暮らしていける状況にあることがわかる。それに対し、工場などの職業領域では、頻繁に日本語が使用されている。毎日の作業の中で日本人からの指示を理解したり、機械が止まったり部品が足りなくなったりするような不測の事態には日本語で連絡する必要がある。多くは日本人の言葉や書いてあるものを理解する行動であるが、もし理解ができず指示通りに行動できないと、業務上大きな損失につながったり、身の安全に関わりかねない問題になる可能性もあるため、企業で働く住民にとっては非常に重要である。

2. 2. 外国人の日本語能力についての認識

外国人の日本語能力の現状について、アンケート調査で外国人本人に自己評価してもらった。上の日本語使用頻度の項目と同様の言語行動の記述を見て、そのようなやりとりを外国人住民が日本語でできるかどうかを質問した。

対象者:アンケート回収数:247名(男性:108、女性:128、無記入:11)

アンケート項目

- ① 1~17 日常生活での一般領域
- ② 18~30 企業関連 または ③ コミュニティ関連
- ④ 31~43 保護者としての項目(該当する人だけの選択的項目)

このうち、②は外国人が集住している地域コミュニティ関係者に対してのみ、③)は外国人が就業している企業関係者に対してのみ実施する。①④は全対象者に実施する。

質問 日本語で、次のようなことができますか?

選択肢 1:全くできない

2:あまりできない

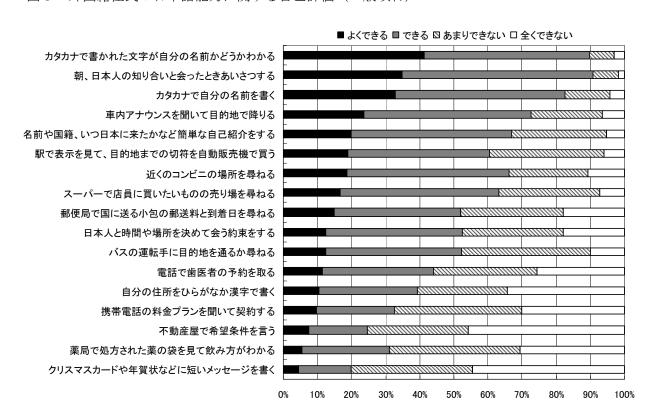
3:まあできる

4:よくできる

結果

まず①の全対象者共通の一般領域(項目番号 1~17)について、外国人自身がどの程度できると 考えているか見てみると、図 5 のようになる。

図5 外国籍住民の日本語能力に関する自己評価(一般項目)



自分の名前を認識し、カタカナで書くことは必要とされる機会も多かったが、実際できる人も多い。しかし、カタカナで自分の名前を書くことが「全くできない」人や「あまりできない」人も2 割近くいることは注目される。さらに、住所をひらがなか漢字で書ける人は40%以下と少なく、かろうじて名前だけが書けるようになっているようである。

「朝、知り合いとあいさつをする」も大多数ができるとしている。しかし、簡単な自己紹介となると30%以上の人が難しいと答えており、平均も上位の3項目以外は3.0以下であった。日常経験する機会の多い、乗り物や買い物場面の質問や認識は2.5以上であるが、それ以外は「あまりできない」2レベルであった。

次に④の保護者としての日本語使用についてみると、図6のようになる。

図6 保護者としての日本語能力に関する自己評価(該当する人だけの選択的項目)

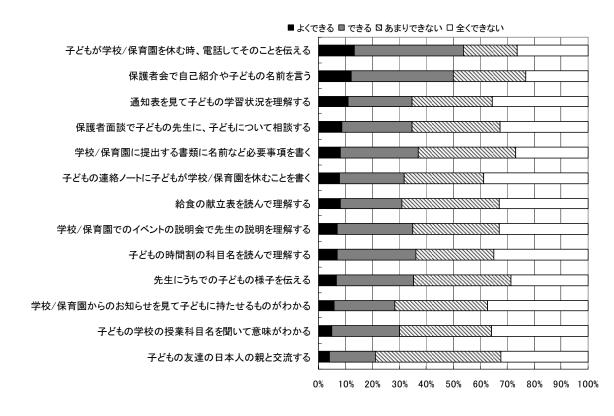


図6のように、保護者としての日本語使用に関しては、全般に難しいと答えた人が多く、学校や保育園を子どもが休むとき電話で伝えられると答えた人が約半数いるが、学校にいる通訳を通じて伝えていることも多いので、どの程度を日本語で行っているのかは不明である。そのほか保護者会で子どもの名前をいうことができると答えた人が半数いる以外は、ほとんどが困難だと答えている。実際、日本語で書かれた通知表や給食の献立表を理解したり、学校・保育園に提出する書類に必要事項を書いたりすることは、かなり日本語ができる外国人でも難しい項目であろう。また、子どもの様子を教師に伝えたり、相談したりすることは必要性があっても、なかなか日本語で遂行することは難しいと感じている。最も困難だとしているのは「子どもの友達の日本人の親と交流する」項目で、前述の日本語使用状況でも最も頻度が低かった。

全員を対象に答えてもらった①と④の項目の各選択肢の選択者数と回答者総数、および平均得点を表5に示す。

表 5. 日常生活および保護者としての日本語使用場面での日本語能力(全員分)

共通項目(企業・コミュニティ)	1	2	3	4	人数	平均
10 カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる	6	14	99	82	201	3.28
1 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする	4	15	117	74	210	3.24
13 カタカナで自分の名前を書く	9	25	101	66	201	3.11
11 車内アナウンスを聞いて目的地で降りる	13	42	97	47	199	2.89
6 名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする	11	56	94	40	201	2.81
4 近くのコンビニの場所を尋ねる	21	47	94	37	199	2.74
14 駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う	12	67	83	38	200	2.74
3 スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる	14	62	94	34	204	2.73
2 バスの運転手に目的地を通るか尋ねる	19	76	79	24	198	2.55
5 郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる	36	62	74	30	202	2.49
7 日本人と時間や場所を決めて会う約束をする	35	59	77	24	195	2.46
33 子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える	27	20	41	14	102	2.41
31 保護者会で自己紹介や子どもの名前を言う	24	27	40	12	103	2.39
8 電話で歯医者の予約を取る	51	61	62	22	196	2.28
43 学校/保育園に提出する書類に名前など必要事項を書く	25	35	28	7	95	2.18
16 自分の住所をひらがなか漢字で書く	68	52	56	20	196	2.14
32 先生にうちでの子どもの様子を伝える	28	37	29	6	100	2.13
12 携帯電話の料金プランを聞いて契約する	58	71	44	18	191	2.12
34 保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する	32	33	26	8	99	2.10
38 子どもの時間割の科目名を読んで理解する	33	27	29	6	95	2.08
41 学校/保育園でのイベントの説明会で先生の説明を理解する	31	31	27	6	95	2.08
37 通知表を見て子どもの学習状況を理解する	34	30	22	10	96	2.08
15 薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる	60	75	49	10	194	2.05
39 給食の献立表を読んで理解する	31	35	21	7	94	2.04
42 子どもの連絡ノートに子どもが学校/保育園を休むことを書く	37	28	24	7	96	2.01
35 子どもの学校の授業科目名を聞いて意味がわかる	35	34	25	4	98	1.98
36 学校/保育園からのお知らせを見て子どもに持たせるものがわ	36	34	21	5	96	1.95
40 子どもの友達の日本人の親と交流する	30	44	17	4	95	1.95
9 不動産屋で希望条件を言う	87	55	32	13	187	1.84
[17] クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く	88	68	31	8	195	1.79

「1:全くできない」から「4:よくできる」の選択肢を全員に選んでもらった平均が表 5 の右端の欄に示してある。中点の 2.50 以上の項目が上から 9 項目で、残りの 21 項目はそれ以下の「できない」としたものが多かった項目である。

上から 3 項目のカタカナの名前の読み書きと挨拶は平均も 3.00 以上でまったくできないとした人はわずかである。しかし、4 項目目から 9 項目目までの 2.50 以上の項目は「1」「2」をつけた人が多くなる。ほとんどの項目に「1」か「2」をつけた人が多い反面、すべてに「4: よくできる」を選んだ人も 5%程度はいるようである。一般領域項目に比べ、保護者としての日本語使用のほうが全体に難しい傾向があるが、「17: クリスマスカードや年賀状に短いメッセージを書く」は全体を通して最も難しいとされた項目であった。

次に、②の地域コミュニティでの日本語使用場面について聞いた項目では、表6のように「ファーストフードの店で注文する」以外は、2.5以下で難しいという回答であった。ファーストフード店では必ずしも日本語で話さなくても、また言葉を使わなくても注文できる。その意味から、今回の地域生活に関する質問項目全般にわたって、対象者にはかなり難しいといえよう。団地で生活をしていく上で掲示板の内容や病院などの情報を理解することは重要だと思われるが、日本語ではできないため、ふだんは母語で情報を得ている様子が見て取れる。

図7 地域コミュニティでの日本語使用場面に関する自己評価

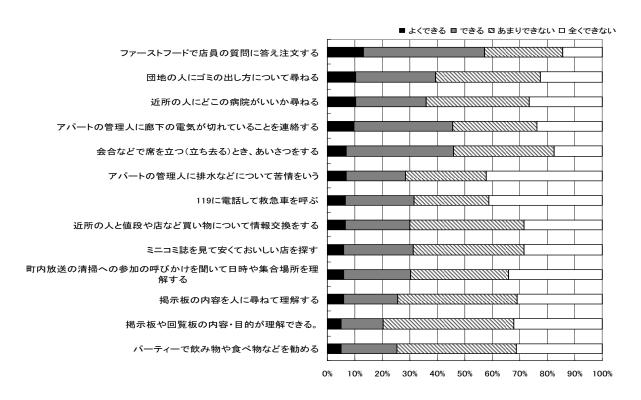


表 6. 地域コミュニティでの日本語使用場面での日本語能力

	コミュニティだけの項目	1	2	3	4	回答数	平均
28	ファーストフードで店員の質問に答え注文する	19	39	58	17	133	2.55
18	会合などで席を立つ(立ち去る)とき、あいさつをする	24	51	55	9	139	2.35
20	アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡す	31	40	46	12	129	2.30
22	団地の人にゴミの出し方について尋ねる	29	51	39	13	132	2.27
21	近所の人にどこの病院がいいか尋ねる	34	49	35	13	131	2.21
29	ミニコミ誌を見て安くておいしい店を探す	37	54	34	7	132	2.08
23	近所の人と値段や店など買い物について情報交換をする	36	55	30	8	129	2.08
24	掲示板の内容を人に尋ねて理解する	38	56	26	7	127	2.02
27	町内放送の清掃への参加の呼びかけを聞いて日時や集合	45	48	33	7	133	2.02
19	パーティーで飲み物や食べ物などを勧める	42	58	27	6	133	1.98
25	119に電話して救急車を呼ぶ	54	36	33	8	131	1.96
30	掲示板や回覧板の内容・目的が理解できる。	42	63	21	6	132	1.93
26	アパートの管理人に排水などについて苦情をいう	54	38	28	8	128	1.92

③の企業関連項目では、表6のように日本語での作業上の簡単なやり取りをしており、その程度はできると思っている人が半数程度はいることがわかる。しかし、毎日の繰り返しでわかったつもりでいても、少し込み入ったことを尋ねたり、簡単な注意書きを見て理解したりすることは難しい人が多い。自分の意見を言う項目は、実際にそのような意見を言える機会がないのも実情であろうが、使用状況の頻度に比べ、できると答えている人の割合は少ない。

図8 企業での日本語使用場面に関する自己評価

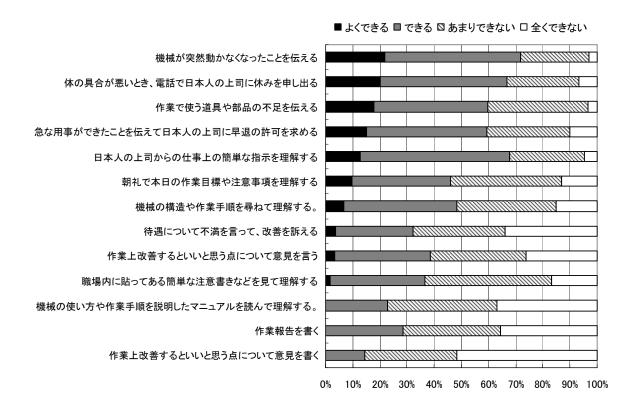


表 7. 企業内の日本語使用場面での日本語能力

	企業だけの項目	1	2	3	4	回答数	平均
18	機械が突然動かなくなったことを伝える	2	16	30	13	61	2.89
22	体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る	4	16	26	13	59	2.81
19	作業で使う道具や部品の不足を伝える	2	22	25	11	60	2.75
28	日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する	3	17	32	8	60	2.75
21	急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求め	6	18	25	9	58	2.64
25	朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する	8	24	21	6	59	2.42
26	機械の構造や作業手順を尋ねて理解する。	9	22	24	4	59	2.39
29	職場内に貼ってある簡単な注意書きなどを見て理解する	10	27	20	1	58	2.21
23	作業上改善するといいと思う点について意見を言う	15	19	20	2	56	2.16
24	待遇について不満を言って、改善を訴える	19	18	16	2	55	2.02
27	作業報告を書く	20	19	16	0	55	1.93
30	機械の使い方や作業手順を説明したマニュアルを読んで理解する	21	22	13	0	56	1.86
20	作業上改善するといいと思う点について意見を書く	29	18	8	0	55	1.62

以上、アンケートの回答者が自分の日本語能力について、どのように認識しているか「よくできる」から「全くできない」の 4 段階で判定してもらった。 2. 1. でまとめた日本語の使用状況とほぼ一致し、普段よく日本語で行われている事柄は、実際日本語である程度できていると判定されている。しかし、中には不一致も見られる。たとえば、一般領域の「15:薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる」場面は使用状況としてはかなり多くの人が、そのような状況は「よくある」「あるいは「ある」と答えており、平均は 2.60 となっているが、実際に「できる」と答えた人は 1/3 以下で、自己評価の平均は 2.05 と低くなっている。また「16:自分の住所をひらがなか漢字で書く」もやはり使用頻度平均は 2.59 であるが、能力平均は 2.14 で「全くできない」人が 196 人中 68 人と 1/3 以上いることがわかる。

このように、必要だが実際にはできないという人がかなりおり、特に保護者としての日本語使用場面で、学校や保育園での子どもに関して実際に理解できないことや伝達できないことがあることは、親としてつらい思いをしている可能性がある。また、日本語の使用が多いと2.1.で報告された企業関連項目での日本語能力の不足は、事故や工場ラインの停止など周囲に大きな影響を及ぼす原因になりかねないことでもあり、外国人住民本人が最も日本語能力の向上を願っていることでもあろう。

Can do statements では経験したことのないことがらに関しては、なかなか正しく自己判定が下せないということが報告されている。そういう意味では、「9:不動産屋で希望条件を言う」や「17:クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く」は、最も低い自己評価項目になっているが、そのような経験をしたことが「全くない」と答えた人も非常に多く、Can do statements の結果も保留すべきであろう。

それでは、これらの項目を外国人住民自身は日本語で行いたいと考えているのだろうか。次に、その 希望の度合いを見ていくことにする。

2. 3. 外国人の日本語能力についての希望・期待(日本語で何ができるようになりたいか)

項目別質問は、日本語使用状況の実態把握に使用したものと同じ例示的記述文を見て、そのようなやりとりを外国人住民自身ができるようになりたいかを問うものである。この例示的記述文の内容は、上記同様、調査対象者別に四種類に分類される。

対象者:アンケート回収数:247名(男性:108、女性:128、無記入:11)

アンケート項目

- ① 1~17 日常生活での一般領域
- ② 18~30 企業関連 または ③ コミュニティ関連
- ④ 31~43 保護者としての項目(該当する人だけの選択的項目)

このうち、②は外国人が集住している地域コミュニティ関係者に対してのみ、③)は外国人が就業している企業関係者に対してのみ実施する。①④は全対象者に実施する。

質問項目 それを日本語でできるようになりたいですか?

1:そう思わない

2:あまりそう思わない

3: そう思う

4:強くそう思う

結果

まず①の一般項目については、図9のように、ほぼすべての項目に8割以上の人が「そう思う」すなわち日本語でできるようになりたいと望んでいる。その中でも、特に「薬の袋を見て飲み方がわかる」や「住所をひらがなか漢字で書く」など読み書きについて希望する人の割合が多い。使用頻度の調査では必ずしも高くなかった項目であるが、できるようになりたいという希望は大きいことがわかった。

図9 一般領域に関する日本語習得の希望

■ 強くそう思う ■ そう思う 🏻 あまりそう思わない 🗆 そう思わない 薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる 自分の住所をひらがなか漢字で書く クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く 携帯電話の料金プランを聞いて契約する 電話で歯医者の予約を取る 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする 駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる 車内アナウンスを聞いて目的地で降りる 日本人と時間や場所を決めて会う約束をする バスの運転手に目的地を通るか尋ねる 郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる カタカナで自分の名前を書く 名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする 近くのコンビニの場所を尋ねる 不動産屋で希望条件を言う カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる 20% 40% 60% 80% 100%

次に、④の保護者としての日本使用に関して、その希望についてみていく。結果は、図 10 のように 9 割近い保護者は日本語でできるようになりたいと望んでいる。そのうち 4 割以上の人が「強くそう思う」としており、子どもの保育園や学校での様子を知ったり、教師との連絡をスムーズにおこなったりすることは、親として是非ともできるようになりたいことであることがうかがえる。また、「子どもの友達の日本人親と交流する」は、経験の頻度でも、能力でも最も低い項目であったが、希望としては 5 番目に高く、親同士のコミュニケーションがはかれれば、そこから多くの情報がもらえ、子どもの親として安心感が得られる可能性は高い。子どもを育てていく上での連帯感を求める気持ちは、どこの国の親でも同じで、交流がしたい気持ちはあるが、そのための手段がないというのが現状であろう。

学校や保育園でお知らせなど事前に準備できるものは、多言語対応で翻訳版を作ることもできるが、実際には難しいものも多く、通訳に依頼できない場合など、さまざまな問題が生ずることもあろう。通訳に依頼できても、十分に気持ちが伝わらないなど、最低限自分で伝えられるようになることは、学校側だけではなく、外国人住民側の切実な気持ちだと考えられる。

図 10 保護者としての日本語習得の希望

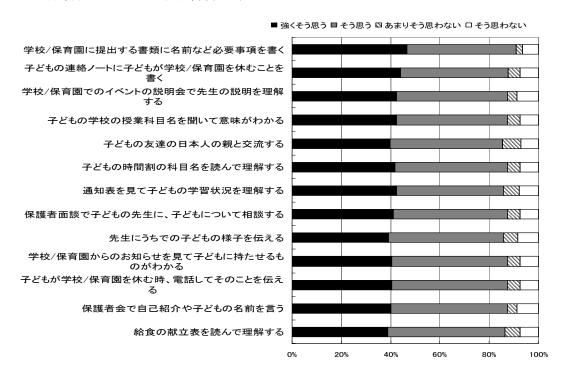


表7. 一般領域や保護者関連の項目に関する日本語習得の希望(全員分)

共通項目(企業・コミュニティ)	1	2	3	1	人数	平均
15 薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる	5	7	68	82		3.40
16 自分の住所をひらがなか漢字で書く	7	8	63	78		
12 携帯電話の料金プランを聞いて契約する	6	7	72	74		3.35
43 学校/保育園に提出する書類に名前など必要事項を書く	5	2	29	36	-	3.33
17 クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く	10	8	65	77	-	3.31
8 電話で歯医者の予約を取る	5	14	68	71	-	3.30
42 子どもの連絡ノートに子どもが学校/保育園を休むことを書く	6	4	31	36	-	3.26
1 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする	7	15	56	65	-	
2 バスの運転手に目的地を通るか尋ねる	6	12	77	62		3.24
35 子どもの学校の授業科目名を聞いて意味がわかる	6	4	32	34		
7 日本人と時間や場所を決めて会う約束をする	9	10	66	63		3.24
11 車内アナウンスを聞いて目的地で降りる	11	7	60	62	-	3.24
5 郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる	6	13	75	61		
38 子どもの時間割の科目名を読んで理解する	6	4	32	33	75	3.23
31 保護者会で自己紹介や子どもの名前を言う	6	3	35	32	76	3.22
3 スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる	7	16	65	63	151	3.22
36 学校/保育園からのお知らせを見て子どもに持たせるものがわ	6	4	32	32	74	3.22
33 子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える	6	4	33	32	75	3.21
41 学校/保育園でのイベントの説明会で先生の説明を理解する	7	3	32	33	75	3.21
34 保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する	6	4	34	32	76	3.21
14 駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う	9	15	60	63	147	3.20
37 通知表を見て子どもの学習状況を理解する	6	5	31	32	74	3.20
13 カタカナで自分の名前を書く	11	9	54	57	131	3.20
39 給食の献立表を読んで理解する	6	4	35	31	76	3.20
6 名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする	8	13	68	58	147	3.20
40 子どもの友達の日本人の親と交流する	6	6	33	33	78	3.19
9 不動産屋で希望条件を言う	7	14	82	57	160	3.18
32 先生にうちでの子どもの様子を伝える	7	5	36	32	80	3.16
4 近くのコンビニの場所を尋ねる	9	16	65	57	147	3.16
[10] カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる	15	11	58	54	138	3.09

表7のように、全項目3.0以上で、すべて日本語でできるようになりたいと強く望んでいる。表1の使用頻度では高くなかった項目も、表7ではすべて高い値を示している。これは、すべての場面で日本語でできるなら、もちろん日本語で行いたいと考えており、そうなれば経験の頻度も高くなっているはずである。できないから実際にはやっていないことが多いと考えられる。「クリスマスカードなどに短いメッセージを書く」や「子どもの連絡ノートに休むことを書く」などは表1の経験の頻度ではたいへん低かったが、表7ではしたいことの中でも上位となっている。

「10:カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる」はすでにできる人が多いため、希望としては最下位となっているが、それでも多くの人が「強くそう思う」とできるようになることを望んでいる。

図 11 地域コミュニティ項目に関する日本語習得の希望

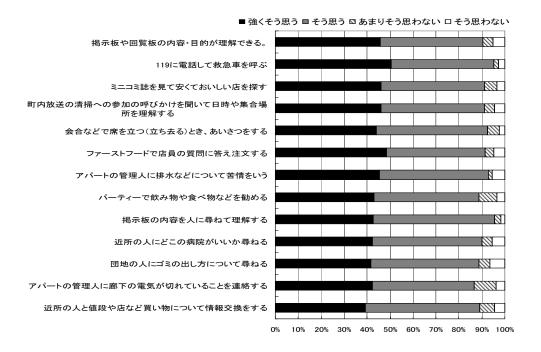


表8 地域コミュニティ項目に関する日本語習得の希望

		強くそう思う	そう思う	まりそう思わな	そう思わない	人数
18	会合などで席を立つ(立ち去る)とき、あいさつをする	52	57	6	3	118
19	パーティーで飲み物や食べ物などを勧める	50	53	9	4	116
20	アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡す	45	47	10	4	106
21	近所の人にどこの病院がいいか尋ねる	47	53	5	6	111
22	団地の人にゴミの出し方について尋ねる	45	51	5	7	108
23	近所の人と値段や店など買い物について情報交換をする	43	55	7	5	110
24	掲示板の内容を人に尋ねて理解する	47	58	3	2	110
25	119に電話して救急車を呼ぶ	53	47	2	3	105
26	アパートの管理人に排水などについて苦情をいう	50	52	2	6	110
27	町内放送の清掃への参加の呼びかけを聞いて日時や集合 場所を理解する	52	51	5	5	113
28	ファーストフードで店員の質問に答え注文する	51	45	4	5	105
29	ミニコミ誌を見て安くておいしい店を探す	52	51	6	4	113
30	掲示板や回覧板の内容・目的が理解できる。	53	52	5	6	116

表8の地域コミュニティ項目でも「119 に電話して救急車を呼ぶ」が「強くそう思う」という希望することのトップであるが、表7の一般領域項目の一位も「薬局で処方された薬の袋をみて飲み方がわかる」であった。このような医療関係項目は、命に関わることだけに、今回の調査では、日本語でできるようになりたいことの第一位であった。次ページの表9の企業でもやはり、「体の具合の悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る」が希望の一番目で、病院・医療関係など健康に関わる項目が、日本語でできるようになりたいことの最も切実なものであることがわかる。この結果は、これらのことが現在できなくて困っているということを示していると考えられる。

図 12、表 9 で明らかなように、企業関連項目でもすべての項目で、ほとんどの人が日本語でできるようになりたいと望んでいる。使用頻度ではあまり高くなかった「作業上改善するといいと思う点について意見を言う」などが、特にできるようになりたいことの上位にきていることは注目に値する。改善点など、ふだん考えている積極的な意見を会社側に伝えられないことは、双方にとってマイナスであろう。

図 12 企業関連項目に関する日本語習得の希望

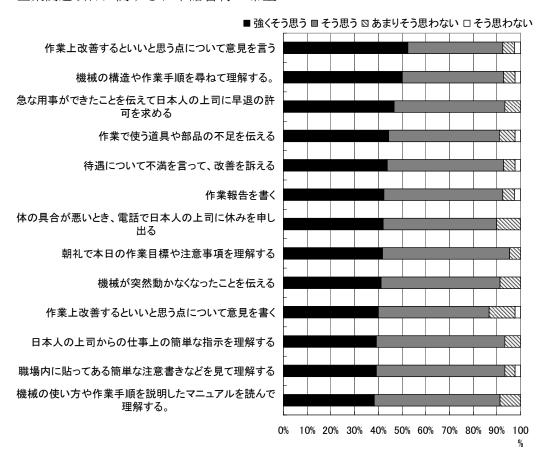


表9 企業関連項目に関する日本語習得の希望

		強くそう思う	そう思う	まりそう思わな	そう思わない	人数
18	機械が突然動かなくなったことを伝える	17	20	2	1	40
19	作業で使う道具や部品の不足を伝える	18	20	2	1	41
20	作業上改善するといいと思う点について意見を書く	18	25	3	0	46
21	急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可	21	18	2	1	42
22	たまりて 体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出 て	21	16	2	1	40
23	作業上改善するといいと思う点について意見を言う	20	21	3	1	45
24	待遇について不満を言って、改善を訴える	18	25	2	1	46
25	朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する	18	21	5	1	45
26	機械の構造や作業手順を尋ねて理解する。	21	21	3	0	45
27	作業報告を書く	18	25	4	0	47
28	日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する	18	23	2	0	43
29	職場内に貼ってある簡単な注意書きなどを見て理解する	19	23	4	0	46
30	機械の使い方や作業手順を説明したマニュアルを読んで理	21	24	5	0	50

以上、日本語使用に関する希望を見てきた。ここでは、すべての項目に対し、日本語でできるようになりたいという強い希望を持っていることがわかった。

3. 対象者の属性と Can do statements の関係

地域コミュニティでとった外国人アンケートの項目と Can do statements の日本語能力の結果をクロス集計したものを表 10 から 13 まで示す。各表の 1 から 17 までの上段の番号は、Can do statements の一般領域項目番号で、下記の質問項目である。数値は各属性グループの平均点である。得点の高いほど自分が「よくできる」と認識していることを示す。

質問 日本語で、次のようなことができますか? 質問項目

- 1 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする
- 2 バスの運転手に目的地を通るか尋ねる
- 3 スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる
- 4 近くのコンビニの場所を尋ねる
- 5 郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる
- 6 名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする
- 7 日本人と時間や場所を決めて会う約束をする
- 8 電話で歯医者の予約を取る
- 9 不動産屋で希望条件を言う
- 10 カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる
- 11 車内アナウンスを聞いて目的地で降りる
- 12 携帯電話の料金プランを聞いて契約する
- 13 カタカナで自分の名前を書く
- 14 駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う
- 15 薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる
- 16 自分の住所をひらがなか漢字で書く
- 17 クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く

選択肢 1:全くできない

2:あまりできない

3:まあできる

4:よくできる

表 10 は地域コミュニティでアンケートに協力してくれた 176 名のうち、これまでに日本語を学習したことがあると回答した 88 名と学習したことがないと答えた 69 名のそれぞれの Can do statements の平均を示したものである。学習したことがあると答えたグループのほうが多少得点が高く、自分でできると判定した人が多かったことがわかる。しかし、挨拶や交通関係の活動などでは差はみられない。

表 10. これまでに日本語を学習したことがありますか?

	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
有	88	3.29	2.67	2.78	2.91	2.67	3.00	2.68	2.57	2.00	3.39	2.96	2.24	3.24	2.78	2.29	2.53	2.04
無	69	3.21	2.22	2.53	2.35	2.14	2.55	2.16	1.98	1.74	3.12	2.77	2.04	2.92	2.62	1.90	2.00	1.58
グループ差			**	+	**	**	*	**	**	+	*			*		*	**	**

では、実際に現在日本語を勉強したことがあるかどうかによるクロス集計では、両グループにほとんど差はなく、項目8と11にわずかな傾向が認められたが、2項目とも日本語を現在勉強していないと答えたグループのほうが得点は高かった。

表 11. 現在、日本語を勉強していますか?

	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
勉強している	70	3.20	2.33	2.64	2.62	2.35	2.86	2.35	2.14	1.85	3.20	2.68	2.10	3.10	2.72	2.12	2.45	1.88
勉強していない	95	3.30	2.56	2.72	2.68	2.51	2.75	2.51	2.46	1.85	3.35	2.98	2.18	3.07	2.71	2.16	2.21	1.84
グループ差									+			+						

+: p<0.1, *: p<0.05, **: p<0.01

表 10 と 11 から、かつて日本語を学習したことのある人のほうが全般にわずかながら日本語能力は高いが、これは現在勉強しているかどうかとは関係がないことがわかった。過去に学習した経験をもつ人の半数が独習だったと答えていることから、日本語を学習する機関が十分機能しているとはいえないことがうかがえる。

次に、日本にきてからの期間と自己評価による日本語能力を見てみる(表 12)。日本に 5 年以上滞在している人が 103 名と圧倒的に多く、単純に比較することは難しいが、表 12 を見る限り、滞在期間が長い人のグループのほうがやや得点は高い。しかし、5 年以上日本にいても「2:あまりできない」のレベルの答えが多く、「3:まあできる」を超えるものは、挨拶と名前の読み書きだけであることは、注目してもよいであろう。

表 12. 在日期間による日本語能力

	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1年未満	17	3.27	2.13	2.38	1.94	1.88	2.56	1.87	1.50	1.25	2.93	2.47	1.53	2.87	2.63	1.88	2.13	1.63
1年~5年未満	41	3.09	2.07	2.38	2.43	1.93	2.62	2.00	1.85	1.59	3.30	2.83	2.00	3.06	2.72	1.77	2.06	1.52
5年以上	103	3.34	2.66	2.86	2.89	2.71	2.91	2.73	2.65	2.06	3.39	2.96	2.32	3.15	2.73	2.31	2.42	2.01

このほか、対象者の性別年齢別に集計したものが表 13, 14 である。表 13 で男女差を見ると、いくつかの項目で、女性のほうが得点が高いことがわかる。「6:名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする」と「16:自分の住所をひらがなか漢字で書く」では 1%水準の有意な差がみられた。また、「8:電話で歯医者の予約を取る」「15:薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる」が 5%水準で女性のほうが「できる」と答えている割合が高いのは家庭生活の中で、家族の健康管理の上で、日本語を使用せざるを得ない場面に多く遭遇するためではないかと推測される。

表 13. 性別

	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
男	66	3.31	2.31	2.60	2.61	2.26	2.54	2.30	2.06	1.74	3.43	2.87	2.10	3.13	2.82	1.90	1.94	1.67
女	100	3.23	2.57	2.74	2.71	2.56	2.95	2.56	2.51	1.95	3.22	2.86	2.21	3.07	2.65	2.28	2.52	1.96
グループ差			+			+	**		*							*	**	+

+: p<0.1, *: p<0.05, **: p<0.01

表 14 の年齢別クロス集計表では、30 代、40 代の回答者の日本語能力が比較的高いことがわかるが、「16:自分の住所をひらがなか漢字で書く」や「17:クリスマスカードや年賀状などに短いメ

ッセージを書く」の文字を書くことに関しては、10代の回答者が最も高くなっている。

表 14. 年齢別

	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
15-19歳	17	3.40	2.60	2.73	2.36	2.30	2.90	2.70	2.40	1.90	3.09	2.91	2.30	3.00	2.82	2.11	2.80	2.70
20-29歳	36	3.31	2.13	2.55	2.52	1.97	2.61	2.07	1.76	1.52	3.41	2.97	1.91	3.16	2.78	1.81	2.06	1.59
30-39歳	60	3.33	2.47	2.59	2.73	2.54	2.90	2.50	2.49	1.93	3.33	2.85	2.11	3.17	2.59	2.09	2.33	1.78
40-49歳	35	3.27	2.90	3.00	2.86	2.94	3.03	2.96	2.90	2.28	3.41	3.07	2.52	3.19	3.00	2.54	2.47	2.03
50-59歳	10	2.67	2.56	2.78	2.88	2.33	2.44	2.13	2.00	1.75	2.78	2.33	2.00	2.56	2.22	2.11	2.00	1.56
60歳以上	3	3.00	1.00	2.33	2.50	2.50	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2.50	1.00	1.50	2.50	2.00	1.00

第3章

提言

1. 調査結果からみえてくるもの

- 1) 現在生じている地域社会の問題点は、外国籍住民の日本語能力の向上により解決可能なもの、 外国籍住民の日本語能力の向上が解決のきっかけとなるものがある。
- 2) 地域コミュニティに存在する問題の解決策として、地域における交流会、日本語教室の開設が日本人からも外国籍住民からも求められている。ここでいう交流会とは、同じ地域に住む住民同士や同じ会社で働く同僚が、お互いのことや家族、文化、習慣などを理解し合う真のコミュニケーションが行われる場のことである。その交流会を通じて、不特定多数の外国籍住民ではなく、○○に住んでいる□□さん、という個人レベルの人間関係が構築できる。
- 3) 交流を進めていくためには、挨拶程度の日本語だけではなく、自分自身のことや家族のことが 話せるレベルまでできるようになる必要がある。同時に、日本人も外国籍住民にわかりやすい 話し方や表現を使うことが求められている。

→【相互理解のための日本語】

- 4) 【相互理解のための日本語】を外国籍住民が身につけていくためには、従来の語学教育や日本 語教育の枠組みではなく、新たな【地域社会における日本語学習支援】の枠組みが求められる。 それは、「地域に密着し交流の要素を兼ね備えた日本語教室」である。その中で、外国籍住民 が日本語や日本の習慣を学ぶと同時に、日本人も外国籍住民にわかりやすい話し方や表現、ま た外国の習慣を学ぶ機会を形成する。
- 5) 通訳や相談員の配置、お知らせ等の多言語対応を求める声も多い。但し、現状でこの施策を進めていけば、最低限のコミュニケーションも通訳や翻訳に頼り、担当者が忙殺されるだけではなく、日本語が出来ない外国籍住民と日本人との分離、二極化が進む可能性もある。通訳や多言語サービスに頼らなくても最低限日本語で行えるようになってもらいたいレベルと、通訳を介した方がいい内容との線引きを行う必要がある。
- 【自立レベル】(通訳や相談員や多言語サービスに頼らなくても基本的な行動が日本語で行えるレベル・内容)
- 【要支援レベル】(外国籍住民にわかりやすい日本語表現を使えば、通訳や相談員や多言語サービスに頼らなくても基本的な行動が日本語で行えるレベル・内容)
- 6)日本人と外国籍住民が相互に理解し合い、問題解決が図れるような多文化共生社会を構築している。 いくためには、最低限のコミュニケーションも通訳や翻訳に頼っている外国籍住民の日本語能力を【要支援レベル】まで引き上げる言語補償政策が求められている。

2. 日本語学習支援体制の整備の提言

1)「地域社会における日本語学習支援」の枠組みの確立=とよた日本語学習支援ガイドライン 外国人の日本語能力記述、学習内容、学習方法、学習支援を行う人の育成などを網羅した仕様 一覧のこと。学習者の日本語能力レベルの判定から個々の実情に対応した学習方法・学習内 容・支援策などを選択することができる。

2) 【とよた日本語学習支援システム】の確立

ガイドラインに基づいて「要支援レベル」までの日本語学習が可能な「<u>地域に密着し交流の要素を兼ね備えた日本語教室</u>」を豊田市内に開設、運営、改良を進めていくためのシステム

【システム・コーディネーター】

外国籍住民を多く抱える地域コミュニティ、外国籍労働者を多く抱える豊田市内の企業から要望を聞き、名古屋大学を中心とするとよた日本語学習支援プロジェクトチームと協力しながら、 日本語教室の開設準備、運営支援、改良支援を行う。

【とよた日本語学習支援プロジェクトチーム】

システム・コーディネーターの要請に基づき、地域コミュニティ、企業の現状調査、教室プログラム開発支援、評価・分析、人材育成、ガイドラインの作成を行う。

3) 「地域に密着し交流の要素を兼ね備えた日本語教室」開設・運営・評価・改良

システム・コーディネーター、とよた日本語学習支援プロジェクトチームの支援のもと、ガイ ドラインに基づいた教室を開設・運営・評価・改良する。

【プログラム・コーディネーター】

システム・コーディネーター、名古屋大学を中心とするとよた日本語学習支援プロジェクトチームと協力しながら、日本語教室の開設、運営、改良を行う。

【日本語パートナー(学習支援ボランティア)】

日本語教室において、同僚や近隣の外国籍の人たちと交流することにより彼らの日本語学習を 支援する。

資料

対面調査にご協力いただく皆様へ

本日は、とよた日本語学習支援プロジェクトの対面調査にご協力いただき、まことにありがとうございます。

この調査は、豊田市に在住する外国籍住民の日本語使用状況、日本語能力、日本語学習に対する要望、学習環境等を調査し、外国籍住民の方が日常生活を営む上で、最低限必要な日本語能力を習得するための支援システムを提案することを目的に行われるものです。同時に、外国籍住民の方と接する機会のある企業や地域コミュニティ、教育機関、公的機関の日本人の方々からも、ご意見をいただき、より実態に即した日本語学習支援システムにしていきたいと考えております。

つきましては、対面調査の結果を資料として分析するため、その内容を録音する許可を いただきたいと思います。録音したデータは、文字化したのち、分析資料といたします。 ただし、個人が特定できるような形での分析、利用、情報公開はいたしません。

また、録音に際して、実名を使いたくない場合には、仮名をお使いください。 上記のことをご理解いただき、ぜひ、率直なご意見をうかがえればと存じます。よろし くお願いいたします。

とよた日本語学習支援プロジェクト代表者 名古屋大学留学生センター 准教授 衣川隆生

国立大学法人名古屋大学 留 学 生 セ ン タ ー 准 教 授 衣 川 隆 生

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、私ども名古屋大学留学生センターでは、豊田市からの委託を受け、「外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査」を行うこととなりました。

この調査は、豊田市に在住する外国籍住民の日本語使用状況、日本語能力、日本語学習に対するニーズ、 学習環境を調査するものです。その結果に基づいて、彼らが日常生活を営む上で最低限必要な日本語能力を 習得するための日本語学習支援システムを提案することを目的に行われるものです。同時に、彼らを受け入 れ、日々接する機会のある企業、地域コミュニティ、教育機関、公的機関の日本人の方々からも彼らとの日 本語を使った接触状況、彼らの日本語能力をどう感じているか、彼らの日本語についてのニーズを把握し、 より実態に即した日本語学習支援システムを提案したいと考えております。

調査に際しましては、まず紙面によるアンケート調査を行い、アンケート調査回答者の中からインタビューに答えていただける方に対する対面調査を予定しております。日本人、外国籍住民双方が住みやすいと感じられる多文化社会構築のために、本調査へのご協力を賜りたく、お願い申し上げる次第です。

お願いしたい内容は下記の通りでございます。お忙しいところまことに恐縮ではございますが、ご検討賜 れば幸いに存じます。

ご不明な点が有りましたら、改めてお電話等にてご説明させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

- ・ アンケート(ポルトガル語 部、スペイン語 部、タガログ語 部、中国語 部)の配布、回収
- ・ 回収の目処は、 月 日頃でお願いいたします。
- ・ご連絡の上、回収分をいただきにまいります。

以上

【本件に関する問い合わせ】

名古屋大学留学生センター内 豊田日本語学習支援プロジェクト事務局

(担当 衣川隆生)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

E-mail toyotajapanese@gmail.com

Tel/Fax (052)-789-4700

日本人対面調査用マニュアル(Ver. 1) 2007. 12.3 版

基本的には公的機関の対面調査でも同様の手順で行うものとする。

調査前の携行品確認

- 1) 録音用 IC レコーダー
- 2) IC レコーダー付属ピンマイク
- 3) IC レコーダー用単4電池
- 4)調査記録用紙(人数分)
- 5) 対象者謝礼クオカード(人数分)(公的機関不要)
- 6) 謝礼領収確認表(公的機関不要)
- 7)ボールペン
- 8) アンケート用紙コピー(公的機関不要)
- 9) 名札(調査者)
- 10)趣旨説明書
- 11) その他

調査者・対象者の録音時の役割

- 1)後日の文字化資料作成のため、調査者は次のような方法で録音を行う。
 - (ア)調査者の発言・質問(文字化対象部分)
 - (イ)対象者の回答(文字化対象部分)
 - (ウ)調査者は対象者の回答が理解できなければ、再度内容を確認する。文字化は基本的に音声のみを聞いた人が行うため、状況の理解がなくてもわかるように言語化を行うこと (「ここにこうやって書いていますけど」などの表現は使わない。「調査票Aの3番には一と書いていますけど」と具体的に表現する。)
 - (エ)調査者は対象者の回答を聞いて簡単なメモをとり、聞くべき事が聞けたと確認した上で 次の質問項目に入ること。

調査に入る前の確認

- 1)挨拶
 - (ア)名札を見せながら調査者が自己紹介をし、名札を対象者の見えるところに置く。簡単な やりとりを行う。
- 2) 趣旨の説明と録音許可

- (ア) 趣旨説明及び録音の許可を求める文書を示し読んでもらい、口頭で許可を得る。
- 3) IC レコーダーの録音確認
 - (ア)対象者にマイクを装着、または前に設置し、録音、モニター、再生を行い録音状態の確認をする。(特にグループや工場内で騒音のある場合)

4)調査の開始

(ア)確認のため、IC レコーダーの番号、録音番号、対象者の ID、調査者の名前を録音してから、対面調査に入る。

「それでは、調査者衣川で○○さんのインタビューを始めます。IC レコーダーは〜番、 録音番号は○○です」

但し、個人名で答えたくない場合には、仮名または、氏名は省略する。

対面調査

- 1) Face Sheet の確認
 - (ア)調査票A(Face Sheet)の内容から適宜情報を抜き出し、確認する。この内容は調査ではなく、あくまでも対象者の確認とウオーミングアップ。
 - (イ)職種の詳細を聞く。
 - (ウ) 役職など詳細を聞く。
 - ① 接触している人数を把握する。
- 2)日本語能力について
 - (ア)日本語能力がどの程度あると認識しているか。
 - ① あなたが接触している範囲では日本語がまったくできない外国人の割合は、どのぐらいいるとお考えですか。
 - ② あいさつや数字、時間など限られた語を使っての意思伝達はできるという外国人の 割合はどうですか。
 - ③ 基本的なコミュニケーションは日本語で出来るという人の割合はどうですか。
 - ④ まったく問題なく日本語を使えるという人の割合はどの程度ですか。
 - ⑤ この割合に最近変化はありますか。
 - (イ)企業・地域内の人間関係や運営を上手く進めていくためには、将来的な理想として外国 人の人にはどの程度の日本語を出来るようになったほうがいいと考えているか。
 - ① 日本語がまったくできなくてもかまわない
 - ② あいさつや数字、時間など限られた語を使っての意思伝達はできたほうがいい
 - ③ 基本的なコミュニケーションは日本語で出来たほうがいい。
 - ④ 問題なく日本語が使えるようになってほしい。

(ウ) 今回のプロジェクトでは、外国の人がそれぞれどのぐらい日本語が出来るのかを測る能力判定も行うことを視野にいれています。自分の接している外国人がどの程度のコミュニケーションができるかを知っているのと知らないのでは、接し方が変わってくる可能性もあります。この人にはこれぐらいの日本語なら通じるとか、この人は通訳が必要だ、などの測定があればいいと便利だとお考えですか。

3) 学習状況・環境について

- (ア) 現在、外国人の人たちは、日本語を学習したいという意欲を持っていたとしても、なかなか学習できないというのが現状です。学習を始め、そして継続していくためには、職場や住居に隣接した環境で、勉強できる時間帯に教室が開設されている必要があります。企業内(地域内)で、例えば外国人の人たちのための教室があったほうがいいと思いますか。
- (イ) あったほうがいいとすれば、どのような時間帯、曜日、場所が都合がいいでしょうか。
 - ① 例えば、土日に開設した場合、外国人の人は出席するとお考えですか。等
- (ウ) 開設するために、問題となることはありますか。例えば、繁忙期とかシフトとか。
- (エ)日本語の教室で日本語で話をする交流の時間があったら、参加してみたいですか。

4) 問題事例について

- (ア)調査票の7)8)9)の記入内容について詳細に聞く。または未記入の場合もあるので、口頭で問題事例について聞く。
 - ① 8)で三つの問題を書いていらっしゃいますが、具体的にどんな問題ですか。どうして解決したいのですか。
 - ② どのような対応を取れば解決するとお考えですか。

調査終了後の作業

- 1)終了の挨拶とお礼
- 2)謝礼
 - (ア)対面調査のお礼としてクオカードを渡し、受け取りの署名をもらう。
 - (イ) 謝礼を拒否された場合の対応(企業など)
- 3)録音の確認
 - (ア) IC レコーダーを再生し、録音を確認する。
- 4)調査票の記入
 - (ア)調査票にICレコーダーの番号、録音番号、対象者、調査者、通訳を記入する。

外国人対面調査用マニュアル(Ver. 1) 2007. 12.3 版

調査前の携行品確認

- 12) 録音用 IC レコーダー
- 13) IC レコーダー付属ピンマイク
- 14) IC レコーダー用単4電池
- 15)調査記録用紙(人数分)
- 16)対象者謝礼クオカード(人数分)
- 17)謝礼領収確認表
- 18) ボールペン
- 19) アンケート用紙コピー
- 20) 名札(調査者·通訳)
- 21) 趣旨説明書
- 22) その他

調査者・通訳・対象者の録音時の役割

- 2)後日の文字化資料作成のため、調査者は次のような方法で録音を行う。
 - (ア)調査者の発言・質問(文字化対象部分)
 - (イ) 通訳(日本語→対象言語)
 - (ウ)対象者の回答
 - (工) 通訳(対象言語→日本語)→録音(文字化対象部分)
 - (オ)調査者は通訳の翻訳が理解できなければ、再度通訳内容を確認する。文字化は基本的に 音声のみを聞いた人が行うため、状況の理解がなくてもわかるように言語化を行うこと (「ここにこうやって書いていますけど」などの表現は使わない。「調査票Aの3番に は〜と書いていますけど」と具体的に表現する。)
 - (カ)調査者は通訳の翻訳を聞いて簡単なメモをとり、聞くべき事が聞けたと確認した上で次 の質問項目に入ること。

調査に入る前の確認

- 5)挨拶
 - (ア)名札を見せながら調査者、通訳が自己紹介をし、名札を対象者の見えるところに置く。 簡単なやりとりを行う。
- 6) 趣旨の説明と録音許可

- (ア) 趣旨説明及び録音の許可を求める文書を示し読んでもらい、口頭で許可を得る。
- 7) IC レコーダーの録音確認
 - (ア)対象者の前、あるいは通訳の前に設置し、録音、モニター、再生を行い録音状態の確認 をする。できるだけ、通訳の音声が確実にとれる場所に設置する。 (特にグループや工 場内で騒音のある場合)
 - (イ) マイクは通訳につけてもらう。
- 8)調査の開始
 - (ア) 確認のため、IC レコーダーの番号、録音番号、対象者、調査者、通訳の名前を録音してから、対面調査に入る。

「それでは、調査者衣川、通訳○○さんで、○○さんのインタビューを始めます。IC レコーダーは一番、録音番号は○○です」

但し、個人名で答えたくない場合には、仮名または、氏名は省略する。

対面調査

- 5) Face Sheet の確認
 - (ア)調査票A(Face Sheet)の内容を確認する。
- 6) 学習状況・環境について
 - (ア)調査票Bの1)~4)の記入内容の確認。
 - 例) ・ ~ さんは、ボランティアが主催する日本語教室で日本語を勉強したことがあるんですね。
 - ・一週間に1回、何時間ぐらい勉強したんですか。
 - ・ 何ヶ月ぐらいの間勉強したんですか。
 - その後は日本語を勉強していない、ということですが、どうしてやめてしまったんですか。等
 - (イ)調査票Bの5)、6)、10)の記入内容の確認と詳細聞き取り
 - ① 勉強したいかどうか。(6)
 - ② 何のために勉強したいのか。その一番の目的は?(10)
 - ③ 勉強したいのになぜ勉強できないかの詳細な理由を聞く。(5)
 - ④ または、勉強が継続できている人は、どういう学習環境だから勉強が継続できているのかを聞く。(5)
 - (ウ)調査票Bの7)~7)の記入内容の確認。
 - ① どこで、いつ、どのくらいなら学習が可能か。単なる希望だけではなく、仕事の状況や繁忙期なども考えてもらい、可能な学習環境を聞く。

7) 問題事例について

- (ア)調査票Bの11)12)13)の記入内容の確認。または未記入の場合もあるので、口頭で問題 事例について聞く。
 - ① 8)で三つの問題を書いていらっしゃいますが、具体的にどんな問題ですか。どうして解決したいのですか。
 - ② どのような対応を取れば解決するとお考えですか。

8)日本語能力について

- (ア) 今回のプロジェクトでは、外国の人がそれぞれどのぐらい日本語が出来るのかを測る能力チェックも行うことを視野にいれています。
- (イ) 今あなたの日本語のレベルを知る方法があれば、その結果はあなたの日本語学習意欲に 役に立ちますか。
- (ウ) そのチェックを受けてみたいと思いますか。

調査終了後の作業

- 5)終了の挨拶とお礼
- 6)謝礼
 - (ア)対面調査のお礼としてクオカードを渡し、受け取りの署名をもらう。
 - (イ) 謝礼を拒否された場合の対応(企業など)
- 7)録音の確認
 - (ア) IC レコーダーを再生し、録音を確認する。
- 8)調査票の記入
 - (ア)調査票に IC レコーダーの番号、録音番号、対象者、調査者、通訳を記入する。

外国人対面調査記録用紙

調査者	対象者	通訳	日時
IC レコーダーNO		録音 NO	

項目	アンケート結果概要	対面調査概要
日本語学習	学習している・していな	
1) ~4)	V	
	どこで()	
学習環境		
5), 6), 10)		

[↑]上記のような調査用紙を作成し簡単なメモを作成する。

対面インタビュー調査から(一部)

1) 接触がある外国人の日本語レベルについて

① 日本語前	能力別に見た企業内、地域内の外国人の割合
公的機関	幼稚園の途中入園の申し込みは毎月20~30人、そのうち外国籍は1割で、通訳が
	必要。
教育関係機関	通訳に頼る人が8割、片言で言えるのが2割
公的機関	外国人のうち約8割程度日本語が通じず、その割合はここ3年変わっていない。そ
	れは外国人は定着せずすぐに移動するから。
公的機関	窓口に来る外国人のうち約2~3割が通訳を必要とする外国人で、その割合は徐々
	に増えている。
医療関係機関	病院に来る外国人は全体の 5~10%で、1 日 50~60 人は来る⇒通訳(スペイン語 1
	名、ポルトガル語1名)が対応。受付に翻訳つき申し込み用紙があるので、それに
	書き込んでもらうが、それもせず、はじめから通訳の名前を言ってくる患者多い。
医療関係機関	日本語がわかる場合でも通訳を求めてくる。通訳を求める人は外国人全体の8割。
教育関係機関	外国人が子供を小・中学校に入れたいと申し込みに来るのは月に5件程度
教育関係機関	通訳なしで日本語が話せる外国人は1割程度
企業関係者	会社内の外国人で仕事上問題ないくらいの日本語ができる人が7割、できない人が
	3 割
企業関係者	50%が派遣社員、そのうち日系人が3割。外国人のうち挨拶程度ができる人が7~8
	割、本当にコミュニケーションできる人は2割いるかいないか。読み書きができる
	人は1割未満。

② 外国人の	り日本語レベルの向上の要望
公的機関	日本語学習の機会を支援する場は絶対に必要。ちょっとした言葉の不適切さでトラ
	ブルになることは少なくない。
職業関係機関	外国人が職を得るために必要なのは日本語能力。それができればある程度職を紹介
	できる
職業関係機関	仕事を探す上で一番は日本語
企業関係者	ラインでのコミュニケーションは不可欠で、日本語ができないとラインに入れられ
	ないので、困っている。能力の向上が望まれる。

③ 最低限の	D能力の育成
教育関係機関	「ごめんなさい」「ありがとう」などのコミュニケーションの基本的な言葉。トラ
	ブルがあってもこれ が言えることによってとりあえず収まりがつく。
教育関係機関	欠席の理由を伝えたり、事前にわかっていたらそれを早めに伝えること
公的機関	自己紹介、道聞き。市役所の中で使う言葉難しすぎる
公的機関	バス・電車のアナウンス、道案内が理解できること
公的機関	自分が市役所に何をしに来たか(住所を変えるのか、登録を更新するのか、新しい 保険証を作ってほしいのかなど)が言えること、名前、住所、生年月日なども基礎 も含めて。
公的機関	「ここに(名前を)書いてください」など基本的なものができれば
医療関係機関	いつから痛いのか、どこの部分が痛いのか、どうしてそうなったのかの3つを言えるといい
職業関係機関	自分のことは最低限話せる、聞いて答えられるようになること(どこに住んでいるか、~の仕事をしたことがあるか)

教育関係機関	名前、自宅の住所、職場の住所が話せる、書ける。子供に何かあったときに連絡で
	きないと困るので。
企業関係者	日常生活で話せること、会社用語(仕事の手順など)ができるようになれば不安が
	らずに仕事ができるはず
企業関係者	場所がわからないとき人に質問して会話ができる、役所で「~の書類がほしい」と
	いう会話ができる程度
公的機関	災害時などテレビのニュース番組を聴いて理解できる程度
教育関係機関	日常会話くらいはできるようになってほしい。(挨拶、自分の名前、子供の欠席連
	絡)通訳にまかせっきりで、日本人との関係は作れていない。
企業関係者	数字、ひらがな・カタカナはわかってほしい。
地域関係者	簡単な日本語。町内清掃の参加を呼びかけを聞いて日時、場所を理解すること、回
	覧板の内容・目的が理解できること。
地域関係者	簡単な日本語は話せるようになるといい。「何をしたか」「どこへ行くのか」など
	ちょっとしたことでも話してみたい。

4 相互理:	解のための日本語
企業関係者	50%くらい理解できる人であれば、噛み砕いた日本語にして言えば理解できる。し
	かし、噛み砕いて言える班長は少ない。
企業関係者	外国人側に歩み寄る行為を見せると、向こうも近づいて来てくれるという経験があ
	る。簡単なポルトガル語を話せるようになること、日本語教室に顔を出すことも必
	要。
地域関係者	お互いの言葉を少しでもわかるように努力することが大事
地域関係者	日本人のために外国人との接し方、話し方のセミナーを開くことも重要。日本人と
	外国人が歩み寄ることが必要

2) 問題事例と交流・日本語教室の必要性について

① 現在の間	問題と解決方策
公的機関	入園の申し込みで必要な書類を持ってこない、不備が多々ある。
教育関係機関	日本の学校のルールや行事についての理解をしてくれない(休みの日の行事、弁当 など)
教育関係機関	日本語学校に行ってまず言語を学ばなければいけない状況で、小・中学校に入って、生活も言語も両方日本人と同じように勉強するのだから、トラブルは起こって 当然。
公的機関	通訳がいない場合はどうしようもないという場合がある。
公的機関	「ネームOK?」「ビザOK?」など極力簡単な言葉で聞けば大体理解し、「はいはい」と言っているが、コミュニケーションできているかと言えばそうは思わない。どうしてもダメな場合は通訳に頼るしかない
公的機関	ブラジル人学校、日本の学校にも行かない子供が増えている。中には出生届が出さ れておらず、存在しないとされている子供もいる
医療関係機関	誰かは通訳をしてくれる人がいる。いない場合は対応できない。この病院は通訳がいるからと聞きつけて遠くからわざわざやってくる人もいる。受付で「(通訳の名前)さん、お願いします」と言う人が多い。
医療関係機関	言葉がわからないからどこが痛いのか、どの科にかかりたいのかがわからない。
医療関係機関	通訳がいなければ会話ができないから一切受け入れられない。救急の場合でも検査 などはできるが、話せる人がいないと結局どうしようもない
医療関係機関	救急の場合だと名前、生年月日などが正確に伝わらなくて、別人になってしまう場合もある。

教育関係機関	外国人の子供(またあるときは親)は日本語が通じないので、通訳を派遣してほし
	いという要望が多い。そしてそれは週何回というのではなく、毎日来てほしいとい
	う要望が多い。
教育関係機関	学校で日本語を覚え、日本のシステムを知ることの重要性を親が理解しているか疑
	問。→手続きの際、質問がない。システムやカリキュラムについて質問されない。
	日本の学校を選ぶ際の検討が不十分。日本との「教育」に対する考え方の違い。
企業関係者	ゴミの問題。これから対策を考えなければいけないが、日本語ができればその問題
	はなくなる。
企業関係者	郵便・宅急便などもらうときに不在票をもらうが、日本語しか書かれていないの
	で、困っている。しかし、それも日本語ができれば問題はなくなる
企業関係者	言葉がわからないことでちょっとした衝突になることがある。一方的に怒られて、
	言葉もわからず人間不信になる。そういうのでうまくやれっていけなくて仕事をや
	める人は多い。
教育関係機関	長期滞在している生徒が少ないせいか、教務主任は保護者を短期の就労者ととらえ
	ていて保護者が日本語を話すことを期待していない。
教育関係機関	1年の担任はまだ直接指導していない。費用の振込依頼手続きが9月から3ヶ月間
	かかっても、完了していない。言葉が通じないため、直接連絡が取れず、通訳任せ
	になっていることが原因。
企業関係者	数字の表記の仕方、服装(安全靴を履いてほしかったが日本語ができないため、理
	解してもらえなかった)、時間の感覚の違い、文化の違いから誤解が生じる。
企業関係者	事前にこの国はこういうものだとある程度の知識を持っていれば、腹を立てないで
	済む。あとは、人となりで時間が経てば関係も作れるようになって大丈夫なる。
地域関係者	一番の問題は日本人の住民が無関心であること。
地域関係者	言葉は重要だが、結局は国、個人の考え方の問題が大きくて、あきらめてしまうこ
	とがある。
地域関係者	活動への不参加、自治区への入会拒否⇒日本語ができれば解決すると思う。
地域関係者	自治会への不参加、ゴミの出し方、

2	地域にお	おける交流や日本語教室の必要	性
松大明尽採明		13日に揺り上がインフルカイ). L

② 地域に857 る文派で日本的教主の必要は		
教育関係機関	通訳に頼りすぎている状況では、負担が多すぎる。そういうものが整理されるとい	
	い。日本語教室にしてももっとあるといい。現状は日本語教室でやることを学校で	
	やっているが、生活もあるし、それでは学生にも負担が大きすぎる。	
教育関係機関	子供のことを考えると、企業で親に対する日本語支援をしてほしい。親が日本語に	
	興味を持って勉強して、子供とコミュニケーションを取れるようになれば子供の日	
	本語も上達する。	
企業関係者	ボランティア教室で勉強しているが、仕事場にそれがあると便利でいい。できるな	
	らぜひ入りたい。	
企業関係者	日本語を勉強したいという要望は多い。家に帰って日本語教室に行くのはなかなか	
	できない。会社に作ることが必要。	
教育関係機関	日本語・日本のことを学ぶ講座が学校にあればいい。法律、麻薬、性教育など、親	
	に教える場が必要。	
教育関係機関	日本人と外国人の保護者の交流の場があればいい。そこで日本語を教えることも可	
	能	
地域関係者	言葉ですべて解決できるわけではないが、言葉は必要。学びたいときに学べるとこ	
	ろがあることは必要。また行事の時だけの交流は不可能で、日常に近い形で接点を	
	持つには日本語教室しかない。	
地域関係者	自分の利益のため、地域的な問題を解決するための情報交換ができる場所としても	
	必要。	

③ 地域から	らの協力
企業関係者	派遣社員はすぐに会社に飽きてしまい、離職率も高い。日本語教室が会社内にあれ
	ば、この会社を好きになってずっといてくれるかもしれないし、そういう意味でも
	日本語教室は開きたい。場所も用意できる
企業関係者	昼勤と夜勤の間の時間なら大丈夫。
地域関係者	もし交流会、教室などで場所が必要なのであれば、集会所は安く貸すことができ
	る。

④ 通訳の弊	攻害
教育関係機関	学校は通訳に頼りすぎ。通訳がプラスにならないことがある。子供が通訳を頼りす
	ぎてしまい、先生の質問も日本語でできるのにポルトガル語で通訳を通して答え
	る。わからない言葉も自分で調べないし、辞書も持っていない。子供たちにはプラ
	スにならない。
公的機関	外国人は通訳に依存しすぎている。今はあまりにも便利すぎ。外国人の数は増えて
	いくのだから、通訳を増やしてもきりがない。学習する機会を作るべき。

⑤ 日本語前	じ力証明の必要性
職業関係機関	証明書のようなものがあると便利。会社にも紹介しやすいし、話を進める上でも有
	利になる。
企業関係者	証明書のようなものがあると役立つ。特に会話のレベル判定。
企業関係者	あったほうが最初の接し方が変わってくるので、便利。

<u> <</u>その他>

● 通訳のフ	大変さ
教育関係機関	保護者と連絡を取るのは難しく、子供たちは授業で気の毒な思いをしていると思
	う。
教育関係機関	両親がまったく日本語が話せず、通訳の先生にいつも連絡して対応している。
教育関係機関	通訳は24時間対応緊急の場合は勤務日でない日でも電話で連絡することもある。
教育関係機関	保護者会のときも通訳がいる日にする。
教育関係機関	朝早く家を出る前に携帯にメールか電話で子供の欠席の連絡が来る。
教育関係機関	学校の集金の未納、学校行事の連絡などは子供が親にしっかり連絡しないため、学
	校からの連絡の紙は渡しているが、確認の電話が来る。
教育関係機関	家庭内、学校内の問題にも相談に乗っている(親の不仲、家庭内暴力、いじめ)
教育関係機関	ほとんど毎日電話でなにかしらの電話・メールがある。(休みの日でも)
教育関係機関	「休みます」くらいは言えるが、それ以上細かい話になると通訳を通してとなる場
	合が多く、電話してすぐ「通訳の先生をお願いします」という保護者も多い。通訳
	のいない金曜日は子供に「学校に行かなくてもいい」という親もいる。
教育関係機関	休みの日でも夜でも通訳に電話をかけて相談する保護者もいる。
教育関係機関	連絡、書類、話し合いなど通訳がいなければこの学校は成り立たない。
公的機関	毎年窓口に来る外国人の数は増えており、それに応じて通訳が必要な数も増えてい
	る。
医療関係機関	外国人の場合はすべて通訳を通してコミュニケーションをとっている。通訳はフル
	回転で先生と患者さんに同席して診断が行われる。

● 多言語対	付応・フローチャートなどのあると便利なもの
教育関係機関	入学手続き(手順)などで使える他言語対応・イラスト付シート
教育関係機関	年間のスケジュール
公的機関	入学案内、行事のプリント、H P
医療関係機関	問診票、一般的な病状説明、病院の説明、予防接種、労災保険などの説明
企業関係者	順番のイメージ図
地域関係者	多言語対応は必要。同じ情報を受け取る権利はみんな持っている。

● それぞれの希望

教育関係機関	子供のために日本語に加えて生活習慣など、日本のものに多少なりとも理解をして
	ほしい、子供は進学を希望しているので、それらが子供のためになる。
公的機関	特に希望はない。通訳を介してでも伝わりさえすればいい。日本語を覚えれば生活
	はしやすくなるが、一方で自分の言いたいことを伝える通訳がしっかりいるという
	システムがあれば十分ではないかという感じもする。日本人が外国人に早く日本語
	を覚えろと求めすぎているように感じるときもある。
公的機関	少なくとも会話は必要。せめて場所くらいは自分で聞けるようになってほしい。通
	訳もいつまでいるかわからないので、日本に住んでいる以上は最低限できるように
	なってほしい
職業関係機関	面接の仕方、受け答えの仕方、基本的なマナー、服装など日本式のマナーを覚える
	こと
教育関係機関	とりあえず学校に行かせるではなくて、中学・高校と進学させるのか、2,3年で帰
	国してブラジルの学校に行かせるのか、将来的なことを考えていない親が多いと感
	じるので、子供にどんな教育をさせたいか考えてほしい
教育関係機関	親向けの日本語指導で、日本語以外にも文化、習慣、教育について学ぶ機会を作っ
	てほしい。
教育関係機関	日本語はもちろん、日本の学校文化に対する理解が深まるとよい。たとえば、ピア
	ス、香水の持ち込み禁止

● 不安

教育関係機関	親が日本語がわからない、仕事が忙しいので、子供の宿題などを見たりしていな
	い。子供にまかせっきりで、コミュニケーションが取れていない。子供の世話をし
	ていないから、子供の素行が悪くなっている。

市民アンケート調査

豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会は、外国人住民、外国人労働者にとって 暮らしやすい町作りを進めるためのアンケート調査を実施することにいたしました。

個人のプライバシーを守るため、あなたからいただいた回答が個人が特定されるような形で公表されることはありません。また、回答によってあなたが不利益を受けることもありませんので、 ぜひご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2007年10月 豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会

アンケート記入にあたってのお願い

- 1. アンケートは必ずご本人がお書きください。
- 2. 回答は、当てはまるものの()に√を付けてください。質問によって、「一つに√」、「当てはまるもの全てに√」など、答え方が異なっていますので、ご注意ください。
 また、「その他」の場合は()内に具体的に回答をお書きください。

* 回収方法の明記

インタビュー調査の募集について

豊田市では、このアンケートの内容について、さらにインタビューを引き受けていただける方を 募集しています。

引き受けていただける方は、以下の欄にご記入ください。後日、改めて日程などを調整させていただきます。

お名前

ご住所

Α	. Fac	e Sheet	[-	つに	-0]											
1)	性別		1	()男性	2	()女性								
2)	年齢		1	()15 歳〜1	9 歳		2	()20 歳、	〜29 歳		3	()30 歳~39 歳	
			4	()40 歳∽4	9 歳		5	()50 歳、	〜59 歳		6	()60 歳~	
3)	地区		1	()初吹			2	()上郷			3	()保見	
4)	団地	内の外国人	、住民	ع 🖰	どのぐらい	接する	機会	€があり	りま	すか。	【一つ	[0]				
1	(毎日			2 ()一進	間に	. 1 回程	建度		3	() 1	ケ F	引に	1回程度	
4	()ほとんど	ない													
5)	接す	る機会があ	ある方	īは.	、外国人住	民とと	このよ	うな	関係	で接し	ていま	すか。	【複	数回	回答可】	
1	(近隣住民	とし	て		2	()友人	ا ع	て		3	() 自	治区役員などと	して
4	()民生委員	など	ک ل	て	5	()その	他()				
6)	団地の	の外国人伯	E民と	は	どんなこと	につし	くて話	まします	ナか	·。 [-	つに〇	1				
1	()日常的な	挨拶	のみ	+											
2	()身近なこ	とに	つし	へての立ち	舌程度										
3	()生活や仕	事に	つし	て雑談すん	3										
4	()生活や仕	事に	つし	て相談に	乗った	りお	願いし	た	りする。						
5	()その他()											

これは、皆さんがお住まいの地域でどのように外国人住民と接しているかについてお尋ねするアンケートで

す。

7) 外国人が多く住む団地などでは以下のような問題があると言われています。あなたは同様の経験がありますか。また、それについてどのようにお考えですか。該当するものに√をつけてください。

問題	同様の約 あります		解決すべる 思いま	き問題だと すか。	ばその! 決する。	ができれ 問題は解 と思いま か
	有	無	解決 さ問 さ で る	特に問 題とは 感じな い	はい	いいえ
ゴミの出し方						
駐車						
騒音						
自治区や自治会などへの入会拒否 回覧板など地域の連絡の不徹底						
地域の親睦活動への不参加						
地域の清掃活動などへの不参加						
8) 上記の問題の中で、今後の取り組みによって解消し 1番目に解決したいこと 2番目に解決したいこと	したいと思っ	っているこ	ことについ	いてお聞か	せくださ	živ.
3番目に解決したいこと						
9) 上記の問題を解消して行くために、地域でどのよさい】	うな対応が	必要だと	お考えで	すか。【:	三つ選ん	でくだ
1 ()日本語教室を開く						
2 ()日本人と外国人住民との交流会を開く						
3 ()日本人に対して、外国文化や外国人の習慣に	ついてのセ	ミナーを	開く			
4 ()外国人住民に対して、日本の生活文化や習慣	についての	セミナー	を開く			
5 ()日本人に対して、外国人住民との「接し方」	や「話し方	〕のセミ	ナーを開	<		
6 ()地域に外国人専門の相談員を置く						
7 ()地域で外国語の教室を開く						
8 ()地域の掲示、お知らせなどを多言語対応にす	る。					
9 ()地域の掲示、お知らせなどに簡単な日本語を	併記する(作	列 ふりか	がなをつけ	ける)。		
10 ()その他()						

は外国人住民や外国人労働者と <u>日本語で、次のよう</u> た がありますか?	ے	経験の頻度)頻度		日	語でで	き ま	か	日本語- なって	で に に に し に し に し に し に し に し に し に し に	きるよう! しいですか	シに
また彼らは日本語で、次のようなことができると思いますか? それを日本語でできるようになってもらいたいですか?	よ も ^ る	\$4	あまりない	全 な い	よく る きる も	である。	あまり でき ない	全でなくきい	強々思くうう	そ思うう	あまり そう 思わ ない	そ 思 な い な こ く
1 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする												
2 バスの運転手に目的地を通るか尋ねる												
3 スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる												
4 近くのコンビニの場所を尋ねる												
5 郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる												
6 名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする												
7 日本人と時間や場所を決めて会う約束をする												
8 電話で歯医者の予約を取る												
9 不動産屋で希望条件を言う												
10 カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる												
11 車内アナウンスを聞いて目的地で降りる												
12 携帯電話の料金プランを聞いて契約する												
13 カタカナで自分の名前を書く 13 カタカナで自分の名前を書く 13 13 14 15 15 15 15 15 15 15												
14 駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う												
15 薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる												
16 自分の住所をひらがなか漢字で書く												
17 クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く												
	•]

#6	あなたは外国人住民や外国人労働者と 日本語で、 次のようなやりとりをし		経験の頻度	頻度		日本	本語でで	きますか	4.	日本調	日本語でできるように	* 3 L	うに
たま	c									なっ	てほし	しいですか	π
к <i>ф</i>	まに似らは日本語で、次のようなことができると忘いますが、それを日本語でできるようになってもらいたいですか?	よあくる	& &	あまり ない	全 な い ・	トキャ マキカ マキカ	できた	りまめ かいない こない	全でなくきい	強そ思くうう	そ思うう	ま う り う れ い い れ い い い い	そ思なったい
18	3 会合などで席を立つ(立ち去る)とき、あいさつをする												
19	3 パーティーで飲み物や食べ物などを勧める												
20) アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡する												
21	近所の人にどこの病院がいいか尋ねる												
22	□団地の人にゴミの出し方について尋ねる												
23	3 近所の人と値段や店など買い物について情報交換をする												
24	掲示板の内容を人に尋ねて理解する												
25	2 119 に電話して救急車を呼ぶ												
26	7パートの管理人に排水などについて苦情をいう												
27	, 町内放送の清掃への参加の呼びかけを聞いて日時や集合場所を理解する												
28	3 ファーストフードで店員の質問に答え注文する												
29) ミニコミ誌を見て安くておいしい店を探す												
30	掲示板や回覧板の内容・目的が理解できる。												

★日本の学校等で外国人子弟の保護者と接する機会がある方は以下の質問にもお答えください。

₩	あなたは外国人住民や外国人労働者と 日本語で、 次のようなやりとりをし		経験の頻度)頻度		H	本語でで	きますか	4	日本語	ずから	日本語でできるように	ろに
ゼ ナ	ンナー・田・イナイデー・キョン・ラ		.			•				なっ	てほし	しいですか	ب
н <i>ф</i>	また彼らは日本語で、次のようなことができると思いますがでそれを日本語でできるようになってもらいたいですか?	4 & \$ &	88	あまりない	全 な い	スペッ のまら る	た る も り	あまった。	全でなくきい	強そ思くうう	そ思うう	あまら い い い た い な い い い い い い い い い い い い い い	か い な い い い
31	保護者会で自己紹介や子どもの名前を言う												
32	先生にうちでの子どもの様子を伝える												
33	子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える												
34	保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する												
35	子どもの学校の授業科目名を聞いて意味がわかる												
36	学校/保育園からのお知らせを見て子どもに持たせるものがわかる												
37	通知表を見て子どもの学習状況を理解する												
38	子どもの時間割の科目名を読んで理解する												
39	給食の献立表を読んで理解する												
40	子どもの友達の日本人の親と交流する												
41	学校/保育園でのイベントの説明会で先生の説明を理解する												
42	子どもの連絡ノートに子どもが学校/保育園を休むことを書く												
43	学校/保育園に提出する書類に名前など必要事項を書く												

市民アンケート調査

豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会は、外国人住民、外国人労働者にとって 暮らしやすい町作りを進めるためのアンケート調査を実施することにいたしました。

個人のプライバシーを守るため、あなたからいただいた回答が個人が特定されるような形で公表されることはありません。また、回答によってあなたが不利益を受けることもありませんので、 ぜひご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2007年10月 豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会

アンケート記入にあたってのお願い

- 3. アンケートは必ずご本人がお書きください。
- 4. 回答は、当てはまるものの()に✓を付けてください。質問によって、「一つに✓」、「当てはまるもの全てに✓」など、答え方が異なっていますので、ご注意ください。また、「その他」の場合は()内に具体的に回答をお書きください。

* 回収方法の明記

インタビュー調査の募集について

豊田市では、このアンケートの内容について、さらにインタビューを引き受けていただける方を 募集しています。

引き受けていただける方は、以下の欄にご記入ください。後日、改めて日程などを調整させていただきます。

お名前

ご住所

これは、皆さんの職場でどのように外国人従業員と接しているかについてお尋ねするアンケートです。

Α.	Fac	ce Sheet	[
10)	性	別	1	()男	性	2	()女性										
11)	年	龄	1	()15	歳〜19	歳	2	():	20 歳	∽ 29	歳	3	() 30) 歳~	·39 歳
			4	()40	歳〜49	歳	5	() !	50 歳	∽ 59	歳	6	() 60) 歳~	
12)	お	つとめの会社	注は、	どのよ	うな職	種です	か。										
13)	外[国人従業員 &	ヒどの)ぐらし	接する	機会が	あります	っか。	. [<u>-</u> つ	150]					
1	()毎日		2	2 ()	一週間	引に 1 回和	呈度			3	() 1 ケ	月に	C 1 🖪	回程度	Ę
4	()ほとんどが	ない														
14)	外[国人従業員。	ヒどの)ような	関係で	すか。	【一つに	0	1								
1	()派遣を受け	ナ入∤	ている	担当者	として	2	()派	遣会	社の	担当	者とし	て			
3	()直接雇用(の担当	者とし	,T		4	()同	僚と	して						
5	()通訳として	T				5	()そ	の他	.(として	()			
6	()接する機会	会がた	よい													
15)	外[国人従業員 る	とはと	ごんなこ	とにつ	いて話	しますか	١,	[-	つに	0]						
1	()日常的な打	挨拶σ	つみ													
2	()作業につい	ハて簡	簡単な指	「示や注	意を行	- j										
3	()身近なこ。	とにつ	ついての	立ち話	程度											
4	()生活や仕事	事につ	ついて斜	Ě談する												
5	()仕事の改善	善なと	ごにつし	て話す												
6	()その他()									

16) 外国人従業員が多い企業では以下のような問題があると言われています。あなたは同様の経験がありますか。また、それについてどのようにお考えですか。該当するものに✓をつけてください。

問題	同様の紙		解決すべる 思いま	き問題だと すか。	ばその! 決する。	ができれ 問題は解 と思いま か
	有	無	解決す べき問 題であ る	特に問 題とは 感じな い	はい	いいえ
事故、安全上の問題						
作業上のミス						
時間感覚の違い						
規則の不徹底						
日本人従業員との人間関係						
労働についての慣習、考え方の違い						
★その他、問題に感じていらっしゃることがあれば具	体的にお書	きくださ	い。			
1番目に解決したいこと2番目に解決したいこと3番目に解決したいこと18)上記の問題を解消して行くために、企業内でどのださい】	ような対応	5が必要 <i>だ</i>	そお考え	ですか。	【三つ選	₫んでく
1 ()日本語教室を開く 2 ()日本人と外国人従業員との交流会を開く						
3 ()日本人従業員に対して、外国人の労働規範・	考え方につ	いてのセ	ミナーを	開く		
4 ()日本人従業員向けに、外国人の労働規範・考	え方につい	へてのハン	ドブック	を作成し	記布する	
5 ()外国人従業員に対して、日本の労働規範・考	え方につい	てのセミ	ナーを開	<		
6 ()外国人従業員向けに、日本の労働規範・考え	方について	のハンド	ブックを	作成し配る	ちする しんしん	
7 ()日本人従業員に対して、外国人従業員との「	接し方」や	・「話し方	」のセミ	ナーを開 [、]	<	
8 ()外国人専門の相談員を置く						
9 ()日本人向けの外国語の教室を開く						

10 ()掲示、お知らせなどを多言語対応にする。

- 11 ()掲示、お知らせなどに簡単な日本語で併記する(例 ふりがなをつける)。
- 12 ()その他()

は外国人住民や外国人労働者と <u>日本語で、次のよう</u> た がありますか?	ے	経験の頻度)頻度		日	語でで	き ま	か	日本語- なって	で に に に し に し に し に し に し に し に し に し に	きるよう! しいですか	シに
また彼らは日本語で、次のようなことができると思いますか? それを日本語でできるようになってもらいたいですか?	よ も ^ る	\$4	あまりない	全 な い	よく る きる も	である。	あまり でき ない	全でなくきい	強々思くうう	そ思うう	あまり そう 思わ ない	そ 思 な い な こ く
1 朝、日本人の知り合いと会ったときあいさつする												
2 バスの運転手に目的地を通るか尋ねる												
3 スーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる												
4 近くのコンビニの場所を尋ねる												
5 郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる												
6 名前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする												
7 日本人と時間や場所を決めて会う約束をする												
8 電話で歯医者の予約を取る												
9 不動産屋で希望条件を言う												
10 カタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる												
11 車内アナウンスを聞いて目的地で降りる												
12 携帯電話の料金プランを聞いて契約する												
13 カタカナで自分の名前を書く 13 カタカナで自分の名前を書く 13 13 14 15 15 15 15 15 15 15												
14 駅で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う												
15 薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる												
16 自分の住所をひらがなか漢字で書く												
17 クリスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く												
	•]

₩ 2	あなたは外国人住民や外国人労働者と 日本語で、 次のようなやりとりをし		経験の頻度	頻度		田	本語でで	きます	4-	日本	日本語でできるように	きるよ	シに
た ***	た経験がありますか? ナナポットロナ話火・かの「これ」「ベバナン「田、ナナバの									なっ	てほし	しいですか	かん
# 1/2	まに仮らは日本語で、次のようなことができるとおいますが、それを日本語でできるようになってもらいたいですか?	よるくる	& &	あまり ない	全ない	スポッ る ま る	できる	あまり でき ない	全でなくきい	強そ思くうう	そ思うう	あそ思なりつわい	そ思なったい
18	機械が突然動かなくなったことを伝える												
19	作業で使う道具や部品の不足を伝える												
20	作業上改善するといいと思う点について意見を書く												
21	急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求める												
22	体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る												
23	作業上改善するといいと思う点について意見を言う												
24	待遇について不満を言って、改善を訴える												
25	朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する												
26	機械の構造や作業手順を尋ねて理解する。												
27	作業報告を書く												
28	日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する												
29	職場内に貼ってある簡単な注意書きなどを見て理解する												
30	機械の使い方や作業手順を説明したマニュアルを読んで理解する。												

市民アンケート調査

豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会は、外国人住民、外国人労働者にとって 暮らしやすい町作りを進めるためのアンケート調査を実施することにいたしました。

個人のプライバシーを守るため、あなたからいただいた回答が個人が特定されるような形で公表されることはありません。また、回答によってあなたが不利益を受けることもありませんので、 ぜひご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2007年10月 豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会

アンケート記入にあたってのお願い

- 5. アンケートは必ずご本人がお書きください。
- 6. 回答は、当てはまるものの()に✓を付けてください。質問によって、「一つに✓」、「当てはまるもの全てに✓」など、答え方が異なっていますので、ご注意ください。 また、「その他」の場合は()内に具体的に回答をお書きください。

* 回収方法の明記

インタビュー調査の募集について

豊田市では、このアンケートの内容について、さらにインタビューを引き受けていただける方を 募集しています。

引き受けていただける方は、以下の欄にご記入ください。後日、改めて日程などを調整させていただきます。

お名前

ご住所

A. Face	Sheet [-	-つに0】					
19) 性別	1	()男性	2 ()3	女性			
20) 年齢	1	()15 歳~19	歳	2 ()20 崩	歳〜29 歳	3	()30歳~39歳
	4	()40 歳〜49	歳	5 ()50 点	歳∽59 歳	6	()60 歳~
21) 国籍/	母国 1	()ブラジル	2 ()	中国 3	()韓国	4	()フィリピン
	5	()ペルー	6 ()	その他()		
22) 職業	1	()就労者		2 ()専業	美主婦	3	()学生
	4	()無職		5 ()その)他()	
23) 来日時	期 初	来日時期	年	_月			
24) 通算滞	5日期間 1	()1年未満		2 ()1年	Ĕ∽5年未満	3	()5年以上
25) 日本に	はあとどの	りくらい滞在する	予定ですか	5			
	1	()3年未満		2 ()3~	∼10 年	3	()10年以上 4 未定
1) あ なたり 1 ()は	は現在、日	ついて伺います。 本語を勉強して「 2 ()いいえ 語を勉強してい			‡. 1		
						()知り合いの日本人から
		外国人から					
7 () 3)				
		たことがありま [.] 2 ()いいえ	すか。【 一つ	oleO]			
4) 「はい	の方は以	前に、どこで日	本語を勉強し	ていました:	か。【〇はいく	つで	ŧ]
1 () オ	ドランティ フ	アの日本語教室	2 ()企業内研修	多 3	()知り合いの日本人から
4 ()知	り合いのタ	外国人から	5 ()日本語学校	交等 6	()独学
7 ()国	で()				
8 () 7	の他()				

5)	あな	ょたが現在、日本語を勉強していない	理由	は何	可ですか。【〇はいくつでも】
1	()日本語ができるから	2	()日本語は必要ないから
3	()勉強する場所を知らないから	4	()勉強する時間がないから
5	()勉強するお金がないから	6	() 勉強そのものがきらいだから
7	()その他()		
6)	П A	S語の勉強をしたいと思いますか。 【	_っ	ı- C) 1
)はい 2 ()いいえ		,-,	
7)	۲۱۶	はい」の方は、どんな場所なら勉強し	ったし	ع٠.	思いますか。一番強く希望するものに〇をつけてくださ
		[一つに0]			
)住まいの近くの日本語教室			
)職場の近くの日本語教室			
3	()職場内の日本語教室			
4	() 自宅でのインターネット等を利用	したか	先生	との学習
5	() 自宅でのインターネット等を利用	した	自習	
		Oぐらいの頻度なら勉強できますか。			
1 :	週間	に回 1回時間ぐらい			
		つぐらいの時間帯なら勉強できますか			はいくつでも】
1	()平日の時∽時	ぐらし	۱,	
)土曜日の時∽□			
3	()日曜日の時〜	诗ぐら	らい	
4	()その他()			
10)何	のために日本語を勉強したいですか。	, [-	-つ	[=O]
1	()日本人との交流			
2	()仕事・昇級・転職のため			
3	()生活を便利にするため			
)子どもの教育や家族のため			
)その他()			
	•	·			

11) 皆さんが住んでいる団地や働いている職場では、日本人と外国人との間で以下のような問題があると言われています。あなたは同様の経験がありますか。また、それについてどのようにお考えですか。該当するものに√をつけてください。

問題	同様のA ありま ^っ		解決すべき 思いま	き問題だと すか。	ばその問 決すると	ができれ 引題は解 : 思いま か
	有	無	解決 対 き 問 る	特に問 題とは 感じな い	はい	いいえ
団地や	地域で	•		•		
ゴミの出し方						
駐車						
騒音						
自治区や自治会などへの入会拒否						
回覧板など地域の連絡の不徹底						
地域の親睦活動への不参加						
地域の清掃活動などへの不参加						
職均	易で					
事故、安全上の問題						
作業上のミス						
時間感覚の違い						
規則の不徹底						
日本人従業員との人間関係						
労働についての慣習、考え方の違い						

[★]その他、問題に感じていらっしゃることがあれば具体的にお書きください。

12) 上記の問題を解消して行くために、日本人にも知っていてもらいたいと思われることがあればチェックしてください。

質問項目	知って	必要な
	ほしい	い
A) 出身国についての基礎知識(国の概要・歴史など)		
B) 出身国の言語、宗教、文化、習慣についての基礎知識(挨拶、宗教に特有なこと)		
C) 出身国と日本の労働習慣の違いについて		
D)わかりやすい日本語表現について		
E) 日本での生活環境, 職場での就労実態、賃金などの待遇		
F) 外国人に通じやすい日本語の話し方		

その他、来日後、遭遇したトラブル、経験で日本人にぜひ知っていてもらいたいと思われることがあれば、 自由に記述してください。

13) 上記の問題を解消して行くために、地域や企業でどのような対応が必要だとお考えですか。【三つ選ん

	でくだ	さい 】
1	()日本語教室を開く
2	()日本人と外国人との交流会を開く
3	()日本人に対して、外国文化や外国人の習慣についてのセミナーを開く
4	()日本人向けに、外国人の労働規範・考え方についてのハンドブックを作成し配布する
5	()外国人住民に対して、日本の生活文化や習慣についてのセミナーを開く
6	() 外国人向けに、日本の労働規範・考え方についてのハンドブックを作成し配布する
7	()日本人に対して、外国人住民との「接し方」や「話し方」のセミナーを開く
8	()地域や会社に外国人専門の相談員を置く
9	()地域や会社で外国語の教室を開く

10 ()地域や会社の掲示、お知らせなどを多言語対応にする。

11 (

12 ()その他(

今までご記入いただいたこと以外でもかまいませんが、今もっとも困っていることは何ですか。何でもご自由に お書きください。

)地域や会社の掲示、お知らせなどに簡単な日本語を併記する(例 ふりがなをつける)。

)

本たた。	- 十日本語 か 一分 () これない なっぱい アンスター カー アンスター	*	を	中理		1 米語や	# 	##4	\ \ \ \ \ \	ソツ豆	木哲 イドキスト	ı.
また日本語		-	X	X		i I	J	2	I F A	にりたいです	てずかいですか	1
それを	それを日本語でできるようになりたいですか?	>4	99	あまり	~ >₩	۴	きる あま!	₩		55	あまり	45
					<u>د</u>	8	でならい	ではいない	そう思う		そう 思わ ない	はない。
1 朝	3、日本人の知り合いと会ったときあいさつする											
2 //	バスの運転手に目的地を通るか尋ねる											
3 ×	、一パーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる											
4 近	「くのコンビニの場所を尋ねる											
至2	郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる											
6 各	5前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする											
7 B	1本人と時間や場所を決めて会う約束をする											
8	3話で歯医者の予約を取る											
6	、動産屋で希望条件を言う											
10 力	りタカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる											
二 曲	E内アナウンスを聞いて目的地で降りる											
12 携	き帯電話の料金プランを聞いて契約する											
13 力	りタカナで自分の名前を書く											
14 駅	代で表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う											
15	薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる											
16 自	1分の住所をひらがなか漢字で書く											
17 2	リスマスカードや年質状などに短いメッセージを書く											
						_						

あなたは 日本語で、 次のような経験をしたことがありますか?		然	経験の頻度	頻度		日本日	本語でで	きます	すか	日本語	与でで	日本語でできるように	うに
また日本語で、次のようなことができますか?										な	なりたいです	べきか	۲,
てんど日本語 じにさるみ フトネツ にいこう がこ	V 10	ሩ ቴ ራ ራ	\$ \$	あまりない	全な い	スペ マキる る	るもろ	あまり でき ない	全でなくきい	強々思くうう	そ思うう	あまり そう 思わ ない	そ の な い な こ な
18 会合などで席を立つ(立ち去る)とき、あいさつをする													
19 パーティーで飲み物や食べ物などを勧める													
20 アパートの管理人に廊下の電気が切れていることを連絡する													
21 近所の人にどこの病院がいいか尋ねる													
22 団地の人にゴミの出し方について尋ねる													
$_{23}$ 近所の人と値段や店など買い物について情報交換をする													
24 掲示板の内容を人に尋ねて理解する													
25 119 に電話して救急車を呼ぶ													
26 アパートの管理人に排水などについて苦情をいう													
27 町内放送の清掃への参加の呼びかけを聞いて日時や集合場所を	所を理解する												
28 ファーストフードで店員の質問に答え注文する													
29 ミニコミ誌を見て安くておいしい店を探す													
30 掲示板や回覧板の内容・目的が理解できる。													

★日本の学校に通っている学齢期のお子さんをお持ちの方は、以下の項目にもお答えください

あまるたち	あなたは <u>日本語で、</u> 次のような経験をしたことがありますか? また日本語で、次のようなことができますか? 2ヵチロ士語ぶぶキ2トミにかりまいですか?	712	経験の頻度	頻度		日本語で	p	ት #	すか	日本語な	ffででき りたい	日本語でできるように なりたいですか	17 (
7	いで 日本語 で こさ るよ ソニ・チッ たい こり ル・チョン はっちゅう アンド・カップ こうしょう アンド・アンド・アンド・アンド・アンド・アンド・アンド・アンド・アンド・アンド・	みる	8	あまり ない	全ない。	トよ できる	た る も る	あまり でき ない	全でなくきい	強々思くうう	そ思うう	あまり そう ほわ ない	そう は ない
31	保護者会で自己紹介や子どもの名前を言う												
32	先生にうちでの子どもの様子を伝える												
33	子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える												
34	保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する												
35	子どもの学校の授業科目名を聞いて意味がわかる												
36	学校/保育園からのお知らせを見て子どもに持たせるものがわかる												
37	通知表を見て子どもの学習状況を理解する												
38	子どもの時間割の科目名を読んで理解する												
39	給食の献立表を読んで理解する												
40	子どもの友達の日本人の親と交流する												
41	学校/保育園でのイベントの説明会で先生の説明を理解する												
42	子どもの連絡ノートに子どもが学校/保育園を休むことを書く												
43	学校/保育園に提出する書類に名前など必要事項を書く												

市民アンケート調査

豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会は、外国人住民、外国人労働者にとって 暮らしやすい町作りを進めるためのアンケート調査を実施することにいたしました。

個人のプライバシーを守るため、あなたからいただいた回答が個人が特定されるような形で公表されることはありません。また、回答によってあなたが不利益を受けることもありませんので、 ぜひご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2007年10月 豊田市多文化共生推進協議会日本語学習支援専門部会

アンケート記入にあたってのお願い

- 7. アンケートは必ずご本人がお書きください。
- 8. 回答は、当てはまるものの()に✓を付けてください。質問によって、「一つに✓」、「当てはまるもの全てに✓」など、答え方が異なっていますので、ご注意ください。
 また、「その他」の場合は()内に具体的に回答をお書きください。

* 回収方法の明記

インタビュー調査の募集について

豊田市では、このアンケートの内容について、さらにインタビューを引き受けていただける方を 募集しています。

引き受けていただける方は、以下の欄にご記入ください。後日、改めて日程などを調整させていただきます。

お名前

ご住所

Α.	Face Sheet	[一つに0]
26)	性別	1 ()男性 2 ()女性
27)	年齢	1 ()15 歳~19 歳 2 ()20 歳~29 歳 3 ()30 歳~39 歳
		4 ()40 歳~49 歳 5 ()50 歳~59 歳 6 ()60 歳~
28)	国籍/母国	1 ()ブラジル 2 ()中国 3 ()韓国 4 ()フィリピン
		5 ()ペルー 6 ()その他()
29)	職業	1 ()就労者 2 ()専業主婦 3 ()学生
		4 ()無職 5 ()その他()
30)	来日時期	初来日時期 年月
31)	通算滞日期間	1 ()1年未満 2 ()1年~5年未満 3 ()5年以上
32)	日本にはあと	どのくらい滞在する予定ですか。
		1 ()3年未満 2 ()3~10年 3 ()10年以上4 未定
В.	日本語の勉強	について伺います。
14)	あなたは現在	、日本語を勉強していますか。【一つに〇】
1	()はい	2 ()いいえ
15)	現在、どこで	日本語を勉強していますか。【〇はいくつでも】
1	()ボランテ	ィアの日本語教室 2 ()企業内研修 3 ()知り合いの日本人から
4	()知り合い	の外国人から 5 ()日本語学校等 6 ()独学
7	()その他()
16)	日本語の勉強	をしたことがありますか。【一つに〇】
1	()はい	2 ()いいえ
17)	「はい」の方	は以前に、どこで日本語を勉強していましたか。【〇はいくつでも】
1	()ボランテ	ィアの日本語教室 2 ()企業内研修 3 ()知り合いの日本人から
4	()知り合い	の外国人から 5 ()日本語学校等 6 ()独学
7	()国で()
8	()その他()

18)	あ	なたが現在、日本語を勉強していなり	ハ理E	自は	何ですか。【〇はいくつでも】
1	()日本語ができるから	2	()日本語は必要ないから
3	()勉強する場所を知らないから	4	()勉強する時間がないから
5	()勉強するお金がないから	6	() 勉強そのものがきらいだから
7	() その他()		
19)	日	本語の勉強をしたいと思いますか。	[こに	0]
1	()はい 2 ()いいえ			
20)	_	はいこのさは、ドノか坦配から始み	1 + 1	٠ ١-	田いままが、一番投入を付まるものにのものはてくださ
		はい。の方は、こんな場所なら拠独	した	ے ۱؍	思いますか。一番強く希望するものに〇をつけてくださ
)住まいの近くの日本語教室			
)職場の近くの日本語教室			
)職場内の日本語教室			
)自宅でのインターネット等を利用	l <i>t- 4</i>	+ 生	トの学習
)自宅でのインターネット等を利用			
Ū	`	76600100 101 4211/11	0/21		
21)	نىل	のぐらいの頻度なら勉強できますか。			
		に回 1回時間ぐらい	•		
22)	بخ	のぐらいの時間帯なら勉強できますが	5 \°.	[0	はいくつでも】
1	()平日の時~時	ぐらし	۸,	
2	()土曜日の時〜[時ぐら	らい	
3	()日曜日の時∽	诗ぐら	らい	
4	()その他()			
23)	何	のために日本語を勉強したいですか。	. [-	-つ	1=0]
1	()日本人との交流			
2	()仕事・昇級・転職のため			
3	()生活を便利にするため			
4	()子どもの教育や家族のため			
5	()その他()			

24) 皆さんが住んでいる団地や働いている職場では、日本人と外国人との間で以下のような問題があると言われています。あなたは同様の経験がありますか。また、それについてどのようにお考えですか。該当するものに√をつけてください。

問題	同様のA ありま ^っ		解決すべき 思いま	き問題だと すか。	ばその問 決すると	ができれ 引題は解 : 思いま か
	有	無	解決 対 き 問 る	特に問 題とは 感じな い	はい	いいえ
団地や	地域で	•		•		
ゴミの出し方						
駐車						
騒音						
自治区や自治会などへの入会拒否						
回覧板など地域の連絡の不徹底						
地域の親睦活動への不参加						
地域の清掃活動などへの不参加						
職均	易で					
事故、安全上の問題						
作業上のミス						
時間感覚の違い						
規則の不徹底						
日本人従業員との人間関係						
労働についての慣習、考え方の違い						

[★]その他、問題に感じていらっしゃることがあれば具体的にお書きください。

25) 上記の問題を解消して行くために、日本人にも知っていてもらいたいと思われることがあればチェックしてください。

質問項目	知って	必要な
	ほしい	い
A) 出身国についての基礎知識(国の概要・歴史など)		
B) 出身国の言語、宗教、文化、習慣についての基礎知識(挨拶、宗教に特有なこと)		
C) 出身国と日本の労働習慣の違いについて		
D)わかりやすい日本語表現について		
E) 日本での生活環境, 職場での就労実態、賃金などの待遇		
F) 外国人に通じやすい日本語の話し方		

その他、来日後、遭遇したトラブル、経験で日本人にぜひ知っていてもらいたいと思われることがあれば、 自由に記述してください。

26) 上記の問題を解消して行くために、地域や企業でどのような対応が必要だとお考	きえですか。	【三つ選ん
でください】		

1 () 日	本語教	至を	開く

- 2 ()日本人と外国人との交流会を開く
- 3 ()日本人に対して、外国文化や外国人の習慣についてのセミナーを開く
- 4 ()日本人向けに、外国人の労働規範・考え方についてのハンドブックを作成し配布する
- 5 ()外国人住民に対して、日本の生活文化や習慣についてのセミナーを開く
- 6 ()外国人向けに、日本の労働規範・考え方についてのハンドブックを作成し配布する
- 7 ()日本人に対して、外国人住民との「接し方」や「話し方」のセミナーを開く
- 8 ()地域や会社に外国人専門の相談員を置く
- 9 ()地域や会社で外国語の教室を開く
- 10 ()地域や会社の掲示、お知らせなどを多言語対応にする。
- 11 ()地域や会社の掲示、お知らせなどに簡単な日本語を併記する(例 ふりがなをつける)。
- 12 ()その他()

今までご記入いただいたこと以外でもかまいませんが、今もっとも困っていることは何ですか。何でもご自由に お書きください。

本たた。	一十日本語 かっしょう ないかん ない オーナー イボオリギ すんり	×1	を	中理		1 米語や	# 	##4	★	木哲 イドキスト	キスト	1
また日本語		-	X	X X		i I	J	2	i I	なりたい	りたいですか	1
それを	それを日本語でできるようになりたいですか?	>4	88	あまり	· ·	۴	きる あま	₩	恕	43	あまり	55
				ない	<u>د</u>	できる	でなってい	かない	そ思うう		そう 思わ ない	ほない
1 朝	別、日本人の知り合いと会ったときあいさつする											
2 //	バスの運転手に目的地を通るか尋ねる											
3 ×	くーパーで店員に買いたいものの売り場を尋ねる											
4 近	丘くのコンビニの場所を尋ねる											
2	郵便局で国に送る小包の郵送料と到着日を尋ねる											
6 各	5前や国籍、いつ日本に来たかなど簡単な自己紹介をする											
7 B	1本人と時間や場所を決めて会う約束をする											
8	雪話で歯医者の予約を取る											
6	、動産屋で希望条件を言う											
10 力	1タカナで書かれた文字が自分の名前かどうかわかる											
二 曲	<u>国内アナウンスを聞いて目的地で降りる</u>											
12 携	携帯電話の料金プランを聞いて契約する											
13 力	1タカナで自分の名前を書く											
14 駅	Rで表示を見て、目的地までの切符を自動販売機で買う											
15 機	薬局で処方された薬の袋を見て飲み方がわかる											
16 自	3分の住所をひらがなか漢字で書く											
17 2	7 リスマスカードや年賀状などに短いメッセージを書く											

ようなことができますか? よく ある あまり 全く ない ない できる ない ない できる ない ない できる ない ない ない できる ない ない ない ない なき ない ない ない なき ない	あな	あなたは 日本語で、 次のような経験をしたことがありますか?		経験の頻度	頻度		日本	日本語ででき	きますか	か	日本語	まるが	日本語でできるように	ろに
作業におきてきるみ JLcみのたいと場合にある。 まく ある あたり ない ない なもの あたり ない	まるたち	:日本語で、次のようなことができますか? **ロ本語なな*** 2 トネロキリセンカナから									な	りたい	ですか	
機械が突然動かなくなったことを伝える 作業で使う道具や部品の不足を伝える 作業で使う道具や部品の不足を伝える 作業で使う道具や部品の不足を伝える 作業と改善するといいと思う点について意見を書く 急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に体みを申し出る 体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に体みを申し出る 体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に体みを申し出る 体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に体みを申し出る 体を具合が悪いとき、電話で日本人の上司に体みを申し出る 体験はの構造や作業目標や注意事項を理解する 朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	۸ ۲	アロ本語でであるようになったが、	よ あ へ ゆ	8	あまりない	全ない	イポッ るま る	100		全でなくきい	強そ思くうう		きょう かい かい かい ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	そ思なったい
作業上改善するといいと思う点について意見を書く () () () () () () () () () ()	-	機械が突然動かなくなったことを伝える												
作業上改善するといいと思う点について意見を書く () () () () () () () () () ()	-	作業で使う道具や部品の不足を伝える												
急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求める □		作業上改善するといいと思う点について意見を書く												
体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る () () () () () () () () () ()	21	急な用事ができたことを伝えて日本人の上司に早退の許可を求める												
作業上改善するといいと思う点について意見を言う (1) <t< th=""><th></th><th>体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>		体の具合が悪いとき、電話で日本人の上司に休みを申し出る												
待遇について不満を言って、改善を訴える □	1	作業上改善するといいと思う点について意見を言う												
朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する。 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		について不満を言って、改善を訴え												
機械の構造や作業手順を尋ねて理解する。 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	ļ	朝礼で本日の作業目標や注意事項を理解する												
作業報告を書く 日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		機械の構造や作業手順を尋ねて理解する。												
日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		作業報告を書く												
職場内に貼ってある簡単な注意書きなどを見て理解する □	28	日本人の上司からの仕事上の簡単な指示を理解する												
機械の使い方や作業手順を説明したマニュアルを読んで理解する。 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		見て理解す												
	1	解する												

★日本の学校に通っている学齢期のお子さんをお持ちの方は、以下の項目にもお答えください

あまるたち	あなたは 日本語で、 次のような経験をしたことがありますか? また日本語で、次のようなことができますか? 2ヵキロ士語なぶキュトシロセルカンがオポル		経験の頻度	頻度		<u>₩</u>	日本語でで	₩ ₩	すか	日本語な	ffででき りたい	日本語でできるように なりたいですか	ここ
þ	いぞ日本語 ここさるみ フトルッ たいこう がこ	ታ & & &	ති ව	あまり ない	全 な い	よく できる	できる	あまり でき ない	全でなくきい	強々思くうう	そ思うう	あまり そう ない	そ の な い た こ
31	保護者会で自己紹介や子どもの名前を言う												
32	先生にうちでの子どもの様子を伝える												
33	子どもが学校/保育園を休む時、電話してそのことを伝える												
34	保護者面談で子どもの先生に、子どもについて相談する												
35	子どもの学校の授業科目名を聞いて意味がわかる												
36	学校/保育園からのお知らせを見て子どもに持たせるものがわかる												
37	通知表を見て子どもの学習状況を理解する												
38	子どもの時間割の科目名を読んで理解する												
39	給食の献立表を読んで理解する												
40	子どもの友達の日本人の親と交流する												
41	学校/保育園でのイベントの説明会で先生の説明を理解する												
42	子どもの連絡ノートに子どもが学校/保育園を休むことを書く												
43	学校/保育園に提出する書類に名前など必要事項を書く												

平成19年度豊田市委託業務

外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査委託調査報告書

発行 平成20年3月

編集・発行 国立大学法人 名古屋大学 留学生センター

₹461-0032

名古屋市千種区不老町

電話:052-789-4700 (衣川研究室) 052-789-4704 (村上研究室)